

武雄市公共施設等個別施設計画 (全体編)

2020年8月

武雄市

目 次

第 1 章 個別施設計画の概要

1	趣旨	1
2	計画の位置付け	1
3	計画期間	1
4	施設の状態について	2
5	対策の優先順位の考え方	2
6	施設の評価及び方向性について	2
7	計画の対象施設	3
(1)	対象施設の条件	3
(2)	対象施設の一覧と状態	4

第 2 章 類型ごとの各施設の評価及び方向性

1	社会教育施設	13
2	文化施設	16
3	学校教育・児童福祉施設	19
4	観光施設	28
5	産業系施設	31
6	保健・福祉施設	37
7	行政施設	
(1)	環境・衛生施設	40
(2)	庁舎類施設	43
(3)	普通財産類施設	46
(4)	消防格納庫	49
8	公園施設	56

第 3 章 今計画の対策費用及びフォローアップ等について

1	対策費用	58
2	武雄市個別施設計画市民会議	58
3	計画のフォローアップについて	59

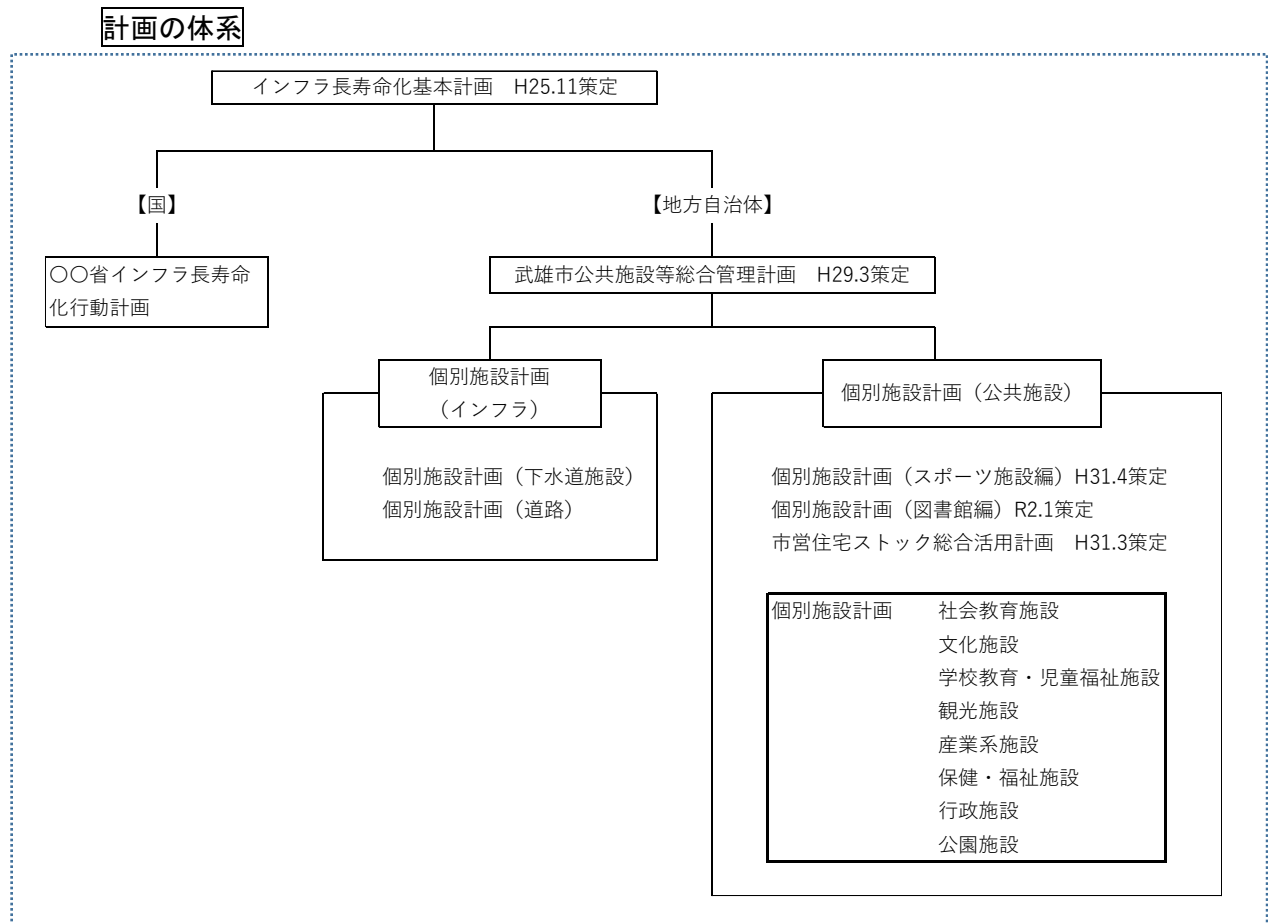
第1章 個別施設計画の概要

1 趣旨

本計画は、武雄市公共施設等総合管理計画（平成29年3月策定。以下「総合管理計画」という。）に基づき、武雄市の公共施設について、将来の方向性等を明らかにするため策定するものである。

2 計画の位置付け

総合管理計画は、国が策定したインフラ長寿命化基本計画に基づき、公共施設やインフラの適正配置や管理に関する基本方針、数値目標を示した指針となる計画である。個別施設計画は、総合管理計画の目標や方針、数値目標を実現するため、市が保有する公共施設等の具体的な方向性を示した計画である。



3 計画期間

この計画の期間は、令和8年度までとする。令和3年度までを前期、令和4年度から令和8年度までを後期とする。

4 施設の状態について

施設の状態については、次の点検・診断によって確認した。今後の方針により利用することとなる施設で、点検・診断が未実施の施設については、点検・診断を実施する。

(点検・診断の方法)

- ・ 建築基準法 12 条定期報告資料 → 躯体以外の部位の劣化状況の把握
- ・ 耐震診断資料 → 構造躯体の健全性の把握
- ・ 修繕履歴資料 → 過去に行われた修繕履歴により部位別の劣化状況の把握
- ・ その他既成資料 → 目視調査等自主的に行われた調査結果により現状を把握

耐震診断が行われておらず耐震性能を有していない可能性がある施設や、バリアフリー対策が十分でない施設もある。各施設の状態は本章第 7 項で述べる。

5 対策の優先順位の考え方

施設の老朽度、劣化・損傷の状況や耐震化・バリアフリー化の実施状況など個別施設の状態や、利用状況、類似施設の状況、地域バランスなどの施設を取り巻く社会的環境などを考慮して、施設量の最適化を判断するとともに、市民生活に必要不可欠な施設等については、安全確保と耐震化を優先し、可能な限り長時間使用するための対策を講じるものとする。

6 施設の評価及び方向性について

(1) 施設の評価

各施設について次の評価指標により性能度と活用度を評価し、「維持」「利用方法見直」「修繕・更新」「廃止」に評価分類する。

■施設の評価指標

項目	主な評価対象項目
性能度	・ 耐震基準への適合 ・ 老朽度の状況 ・ バリアフリーへの対応 ・ 避難所機能の有無 など
活用度	・ 類似施設の有無 ・ 施設の利用者数 など

■施設の評価内容

評価分類	内容
①維持	性能は高く、よく活用されている施設は現状のまま維持管理とするが、長期間かつ十分に活用してもらうために、定期的なメンテナンス等を行う。

②利用方法見直	性能は高いが、あまり活用されていないため利用度を高める必要がある施設であり、利用者を増加させるための工夫や統廃合により利用者を集約、又は民営化、PFIなどの検討を行う。
③修繕・更新	活用されているが、老朽化や耐震力不足など施設の性能が低いので修繕や更新をすべき施設であり、更新の場合は、そのまま更新ではなく統廃合の検討を行う。
④廃止	性能は低く、あまり活用されていないので基本的には廃止をすべき施設であり、廃止や統廃合による廃止を行う。

(2) 施設の方向性について

施設の方向性は、次の基本方針及び実施方針によるものとする。

基本方針	実施方針	考え方
施設量最適化	統廃合、集約複合化、民営化、利用方法見直し など	今後の人口減少及び需要の変化や財政見込により施設量の縮減を目指す施設
長寿命化等	長寿命化、維持補修 など	機能的に必要と判断されるため可能な限り長時間使用するための措置を講じる施設
安全確保	耐震改修、除去処分、更新 など	安全性の確保を優先するための対策を講じる施設

7 計画の対象施設

(1) 対象施設の条件

本計画は、総合管理計画に掲げる公共建築物（建物）及びインフラ施設から、以下の施設等を除外した施設を対象として策定するものとする。

①企業会計の施設

【施設例】下水道施設等

②インフラ施設

【施設例】道路、橋梁等

③既に個別施設計画を策定した施設

・市営住宅

《武雄市営住宅ストック総合活用計画（平成31年3月策定）》

・スポーツ施設

《武雄市公共施設等個別施設計画（スポーツ施設編）（平成31年4月策定）》

・図書館

《武雄市公共施設等個別施設計画（図書館編）（令和2年1月策定）》

(2) 対象施設の一覧と状態

種類	施設名		構造	面積 (㎡)		設置年	施設の状態
				建物	その他		
社会教育施設	武雄公民館		RC3	94		1975	文化会館（成人棟）に事務所を置いている。文化会館（成人棟）を参照。
	橘公民館		W1	629		2016	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	朝日公民館		RC1	669		1979	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（非常用照明一部なし）。和室に雨漏りがあり、外壁塗装の劣化が見られる。東側の斜面が土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）に指定されている。
	若木公民館		S1	555		1984	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（排煙設備作動不良、非常用照明不点灯）。外壁の腐食がみられ、損傷箇所がある。
	武内公民館		W1	635		2014	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	東川登公民館		S1	597		1989	集会室の天井取り付け金具に損傷が見られる。エアコンの応急修理を行っているが取替の検討も必要である。
	西川登公民館		S1	619		1994	電気設備の老朽化が見られ、蛍光灯に不具合が見られる。エアコンの応急修理を行っているが取替の検討も必要である。
	山内公民館		RC1	632		1992	雨漏り修繕を行い応急処置は行ったが根本原因には至っていない状況である。
	北方公民館事務所棟		RC2	1,715		1989	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（地盤沈下、躯体割れ、外壁タイル浮き、内壁タイル浮き、非常用照明の不点灯等）。令和元年8月豪雨被害により地下機械室の冠水により、空調設備、消防設備、トイレ（仮復旧）の故障しており設備の復旧が急務。
	コミュニティ百堂		W1	169		1955	施設全体として老朽化が進んでいる。
文化施設	文化会館	集会棟	RC2	1,052		1974	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（外壁タイル浮き、階段鉄筋露出、外壁タイル白華、階段鉄筋露出）。2階廊下で雨漏りあり。。
		成人棟	RC3	1,190		1974	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（内壁隔離、外壁タイル浮き、床タイル損傷、階段鉄筋露出、外壁タイル白華）。
		勤労青少年ホーム棟	RC2	1,081		1972	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（外壁タイルクラック、タイル剥落、階段鉄筋露出、梁下鉄筋露出、ガラス破損）。
		大ホール棟	RC4	5,387		1974	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（外壁モルタルクラック、外壁タイル浮き、床タイル損傷、鉄筋露出等）。ホワイエ、楽屋廊下で雨漏りあり。舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。
		小ホール棟	RC2	2,979		1974	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（外壁モルタルクラック、外壁タイル浮き、床タイル損傷等）。ミーティングホールで雨漏りあり。舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。
	北方文化ホール		RC2	935		1989	ホワイエは雨漏りしている。音響、照明、舞台設備は経年劣化により更新が必要。令和元年8月豪雨災害により、地下機械室が冠水したことにより、空調、消防、衛生設備が不能となっている。
学校教育・児童福祉施設	武雄中学校	校舎（管理棟等）	RC2	1,996		1981	平成25年に老朽化に伴う大規模改修工事実施済。
		校舎（普通教室棟）	RC3	4,521		2012	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC2	1,607		2016	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		武道場	W1	486		2014	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	AL	450		1976	全体的に老朽化が進んでおり、平成21年にろ過機の更新を行っている。

種類	施設名		構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
				建物	その他		
学校教育・児童福祉施設	武雄小学校	校舎（特別教室棟）	RC2	890		1979	平成22年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		校舎（管理・教室棟）	RC3	3,490		2013	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,184		2015	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1954	全体的に老朽化が進んでおり、平成13年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	SUS	200		1982	全体的に老朽化が進んでおり、平成13年にろ過機の更新を行っている。
	御船が丘小学校	校舎（管理・教室棟）	RC2	5,850		1992	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		校舎（教室棟）	RC2	421		2002	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC2	1,265		1993	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	FRP	350		1993	全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。
		小プール	FRP	55		1993	全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。
	朝日小学校	校舎（管理・教室棟）	RC3	2,391		1970	平成14年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		校舎（特別教室棟）	RC3	2,207		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	S1	1,151		1987	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1965	全体的に老朽化が進んでおり、平成13年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	120		1965	全体的に老朽化が進んでおり、平成13年にろ過機の更新を行っている。
	橘小学校	校舎（教室棟等）	RC2	2,764		1998	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,197		2002	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		武道場	S1	132		1982	床や壁等に劣化が見られる。
		大プール	RC	300		1967	全体的に老朽化が進んでおり、平成9年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	72		1971	全体的に老朽化が進んでおり、平成9年にろ過機の更新を行っている。
	武雄北中学校	校舎（教室棟・管理棟）	RC3	3,183		1976	平成29年に耐震補強、令和元年まで老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		技術室	S1	180		1976	経年劣化が見られ、今後老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれる。
		屋内運動場	S1	861		1977	平成12年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		屋内運動場	S1	103		2001	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	AL	400		1979	全体的に老朽化が進んでおり、平成24年にろ過機の更新を行っている。
	若木小学校	校舎（特別教室棟）	RC2	1,334		1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		校舎（普通教室棟）	W1	896		1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC2	1,255		2003	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1968	全体的に老朽化が進んでおり、平成27年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	FRP	90		1988	全体的に老朽化が進んでおり、平成27年にろ過機の更新を行っている。
	武内小学校	校舎（特別教室棟等）	RC2	1,263		1999	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		校舎（管理・教室棟）	W1	1,498		1999	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,178		1994	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1973	全体的に老朽化が進んでおり、平成18年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	70		1973	全体的に老朽化が進んでおり、平成18年にろ過機の更新を行っている。
	川登中学校	校舎（管理・教室棟）	RC3	2,710		1967	平成10年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		技術室	S1	220		1967	平成27年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		音楽室	W1	119		1967	平成27年に老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		屋内運動場	S2	804		1969	平成11年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事実施済。
		大プール	AL	400		1980	全体的に老朽化が進んでおり、平成22年にろ過機の更新を行っている。

種類	施設名		構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
				建物	その他		
学校教育・児童福祉施設	西川登小学校	校舎（教室棟）	RC3	1,493		1974	平成20年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		校舎（管理・特別教室棟）	RC3	1,268		2009	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,191		1997	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	325		1972	全体的に老朽化が進んでおり、平成15年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	70		1972	全体的に老朽化が進んでおり、平成15年にろ過機の更新を行っている。
	東川登小学校	校舎（教室棟）	RC3	1,373		1971	平成18年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		校舎（管理・特別教室棟）	RC2	1,369		2008	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,192		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1973	全体的に老朽化が進んでおり、平成18年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	70		1973	全体的に老朽化が進んでおり、平成18年にろ過機の更新を行っている。
	山内中学校	校舎（特別教室棟）	RC2	1,415		1978	平成23年に老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		校舎（管理・教室棟）	RC3	3,182		2014	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	RC1	1,410		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	山内東小学校	校舎（校舎棟）	RC3	3,651		1990	屋根の防水シートに経年劣化が見られる。
		屋内運動場	RC2	930		1990	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		大プール	RC	375		1959	全体的に老朽化が進んでおり、令和元年にろ過機の更新、配管の改修及びプール内面の補修を行っている。
		小プール	RC	100		1959	全体的に老朽化が進んでおり、令和元年にろ過機の更新、配管の改修及びプール内面の補修を行っている。
	山内西小学校	校舎（教室棟等）	RC3	3,664		1985	現在のところ安全面等に問題はないが、今後老朽化に伴う大規模改造が必要となってくる。
		屋内運動場	S1	724		1978	平成28年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		大プール	RC	375		1970	全体的に老朽化が進んでおり、平成29年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	120		1970	全体的に老朽化が進んでおり、平成29年にろ過機の更新を行っている。
	山内東小学校 犬走分校	校舎（校舎棟）	W1	378		1999	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		校舎（校舎棟）	S1	155		1999	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	山内東小学校 舟原分校	校舎（校舎棟）	W1	365		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	S1	298		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	山内西小学校 立野川内分校	校舎（校舎棟）	W1	376		2006	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		屋内運動場	S1	295		2006	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	北方中学校	校舎（管理特別教室棟等）	RC4	4,372		1982	平成16年及び平成28年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		技術室	S1	264		1982	経年劣化が見られ、今後老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれる。屋根の防水シートに経年劣化が見られる。
		屋内運動場	RC2	1,644		1983	平成18年に老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
	北方小学校	校舎（教室棟・管理棟）	RC3	4,459		1974	平成27年から平成29年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事及びエレベーター増築工事を実施。令和元年まで引き続き大規模改造工事を実施。
		校舎（教室棟）	RC3	533		1983	平成29年に老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		屋内運動場	S1	1,000		1974	平成25年に耐震補強、老朽化に伴う大規模改造工事实施済。
		大プール	RC	425		1974	全体的に老朽化が進んでおり、平成14年にろ過機の更新を行っている。
		小プール	RC	150		1974	全体的に老朽化が進んでおり、平成14年にろ過機の更新を行っている。

種類	施設名		構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
				建物	その他		
学校教育・児童福祉施設	北方給食センター	給食センター	S1	569		2000	雨漏りや内壁の破損、排水管の漏水などがある。
	放課後児童クラブ	武雄児童クラブ（武雄小）	RC2	1,382		1982	施設全体として老朽化が進んでいる。
		御船ひかりっこクラブ（御船小）	W1	163		2010	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		御船ゆめっこクラブ（御船小）	W1	208		2017	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		風の子クラブ（山内東小）	W1	73		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		ひまわり教室（山内西小）	W1	95		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		あおぞら教室（北方小）	RC3	199		1974	平成29、30年度に大規模改修工事を行ったため、特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
観光施設	観光交流センター	交流センター	S1	435		2009	北口の自動ドア付近で雨漏りが発生している。
		公衆トイレ	S1	301		2007	洗面台等の配管の腐食が出てきている。また、排水管（汚水）の詰まりがたまに発生する。
	保養村	管理棟（受付）	S1	11		1994	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		休憩所	W1	144		1994	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		エントランス	S1	331		1997	施設内の男子トイレセンサーに不具合が出ている。建物に雨漏れや外壁の釘が浮き出るなど老朽化が進んでいる。
		倉庫	CB1	15		1993	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		スカイバス駅舎	S1	114		1993	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ	W1	36		2015	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	川古の大楠公園	為朝館	W1	99		1994	水車に面する屋根の一部に腐食が見られる。施設内のからくり人形の配電の老朽化が進んでいる。
		水車小屋	W1	35		1994	北側の扉が開閉できないなど建物の歪みが見られる。
		公園トイレ	RC1	47		1994	男子小便器のセンサー等、設備の不具合が出てきている。
	竹古場キルンの森公園	飛龍窯	S・煉瓦	365		1996	窯はひび割れ等があり、焼成用としては利用できない。
		向窯	W・煉瓦	52		1996	窯は多少ひび割れが見られる。
		工房	W1	185		1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		飛龍の里	W1	46		2002	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
産業系施設	勤労者福祉会館		RC2	825		1973	施設全体として老朽化が進んでいる。
	山内農村環境改善センター		RC1	1,281		1986	建築基準法第12条特定建築物検査で要改善指摘事項あり（排煙設備作動不良、非常用照明不点灯、特定天井既存不適格）。
	農村地域高齢者活動促進施設		W1	101		1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	道の駅山内	黒髪の里	RC1	314		1997	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		なな菜	W1	263		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	競輪場	発売	メインスタンド棟	S3	2,553	2016	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			ミニタケ棟	S1	412	1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			旧特別観覧席棟	SRC3	2,379	1972	外壁や床の劣化、冷暖房設備の故障など老朽化が進行している。
			新特別観覧席棟	SRC3	1,723	1993	外壁や床の劣化、冷暖房設備の故障など老朽化が進行している。
		選手管理	選手宿舍棟	RC2	1,914	1980	屋根や外壁が劣化して雨漏りが頻発している。
			選手管理棟	RC2	1,038	1971	施設全体として老朽化が進んでいる。
			選手トレーニング室	S1	195	1989	外壁の汚れなど経年劣化はあるものの、大きな不具合はない。
		事務	管理事務所棟	S2	683	1996	経年劣化はあるものの、現時点では施設管理上の大きな問題点はない。
		競技	バンク	-	6,193	2015	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。

種類	施設名		構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
				建物	その他		
保健・福祉施設	保健施設	山内保健センター	RC1	774		1994	調理室の冷暖房が故障している。内壁の壁紙の剥がれが各所に見られる。
		北方保健センター	RC2	735		1991	男性トイレのセンサーが故障している。水洗トイレタンクの水の貯まり具合が悪い。診察室の空調（暖房）の不具合が見られる。
	福祉施設	山内老人福祉センター	RC2	506		1995	給湯器、空調設備等の故障がみられるが、修繕等を行い対応を行っている
		日輪荘生きがい対応型デイサービスセンター	S1	108		1999	事務室エアコン等設備の故障等が目立つ。
行政施設	環境・衛生施設	衛生処理センター	RC	3,596		2000	機械設備については、運転管理を委託している業者による日常点検と、機械メーカー推奨のサイクルでのオーバーホール等のメンテナンスを行っている。平成22年度に、外壁、内壁及び床面のクラック補修を行っている。
		リサイクルセンター	S	837		2000	施設・作業機器の老朽化に伴い、設備の修繕が多く維持管理費が増加傾向にある。
	庁舎類施設	本庁舎	庁舎	RC6	8,645	2018	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			車庫倉庫北棟	RC2・S2	758	2018	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			車庫東棟	S1	277	2018	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			倉庫東棟	S1	120	2018	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		旧本庁舎	庁舎	RC4	4,767	1966	老朽化に伴い、平成30年に廃止済である。
			車庫・倉庫棟	S1	674	1966	老朽化に伴い、平成30年に廃止済である。
			倉庫棟	S1	119	1968	老朽化に伴い、平成30年に廃止済である。
		旧山内支所	庁舎	RC3	3,487	1992	外壁に若干の痛みが見受けられるが修繕を行うことで対処している。
			別館・倉庫	RC2	644	1992	外壁に若干の痛みが見受けられるが修繕を行うことで対処している。
		旧北方支所	南庁舎	RC3	2,165	1995	特に損傷はなく、安全面等問題なし。
			北庁舎	RC2	1,022	1970	老朽化に伴い、令和元年に廃止済である。
			旧水道課・公用車倉庫	S2	911	1994	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			西側旧まちづくり課倉庫	S1	40	1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			西側緊急車両倉庫	S1	96	1998	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	普通財産類施設	旧北方幼稚園	RC1	726		1985	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		三間坂駅舎	W1	151		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		小楠倉庫類	W1・2・S1	664		1947	施設全体として老朽化が進んでいる。
		昭和区コミュニティセンター	S1	111		1990	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		天神区コミュニティセンター	S1	111		1990	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		旧西川登保育所	W1	746		1968	雨漏り等はないが外壁にひび割れが見られる。
		外国人教師宿舎	W1	49		1990	内壁や床の修繕を行うことで、住居としての機能は備えている。

種類	施設名				構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
						建物	その他		
行政施設	消防施設	第1分団 (武雄町)	本部	武雄町内	W2	81		1977	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第01部	蓬萊町、内町、桜町、永松、西浦、松原、中町、昭和	W1	50		1978	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	新町、本町、宮野町	W1	25		1978	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	下西山、竹下町	W1	25		1973	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第04部	上西山	W1	44		2010	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第05部	武雄	W1	70		2000	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第06部	花島、永島、溝ノ上	W1	60		1984	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第07部	小楠、天神	W1	44		2009	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第08部	八並	LSG2	30		1987	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第09部	川良	W1	60		1993	施設全体として老朽化が進んでいる。
		第2分団 (朝日町)	本部	朝日町内	W1	35		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第01部	高橋	W1	36		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	南上滝	W1	35		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	北上滝	W1	46		2014	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第04部	甘久	W1	40		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第05部	中野	W1	40		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第06部	繁昌	W1	40		1989	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第07部	川上	W1	35		1965	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第08部	黒尾	W1	50		1990	施設全体として老朽化が進んでいる。
		第3分団 (若木町)	本部・第01部	若木町内、皿宿、下村	W1	58		1978	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	上宿、川古山中	W1	33		1985	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	川内	W1	22		1982	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第04部	菅牟田、附防	W1	50		1984	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第05部	本部山中、原、黒岩、宿、百堂原	W1	42		1985	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第06部	御所、中山、永野	W1	35		1991	施設全体として老朽化が進んでいる。
		第4分団 (武内町)	第01部	東梅野、梅野	W1	50		1985	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	西梅野	W1	25		1984	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	東真手野	W1	50		1984	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第04部	西真手野	W1	54		1997	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第05部	柚ノ木原	W1	44		2008	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第06部	多々良	W1	45		2017	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			本部・第07部	武内町内、東真手野	W1	42		1982	施設全体として老朽化が進んでいる。

種類	施設名				構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
						建物	その他		
行政施設	消防施設	第5分団 (西川登町)	本部	西川登町内	W1	50		1994	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第01部	弓野	W1	40		1989	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	高瀬	W1	50		1995	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	小田志	W1	30		1990	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第04部	庭木	W1	25		1995	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第05部	矢筈	W1	40		1980	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第06部	神六	W1	30		1978	施設全体として老朽化が進んでいる。
		第6分団 (東川登町)	本部	東川登町内	W1	42		1992	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第01部	宇土手	W1	46		1978	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	袴野	W1	50		1990	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	内田	W1	35		2011	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第03部 楠峰格納庫	楠峰	W1	20		1984	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第04部	北永野、南永野	W1	46		1991	施設全体として老朽化が進んでいる。
		第7分団 (橘町)	本部	橘町内	W2	35		1977	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第01部	二俣、鳴瀬	W1	41		2010	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第02部	釈迦寺、片白、南片白	W1	29		1993	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	潮見、上野	W1	51		1997	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第04部	小野原、北檜崎	W1	47		1991	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第05部	沖永、大日、納手	W1	55		1988	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第06部	南檜崎	W2	22		2015	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		第8分団 (山内町)	本部	山内町内	LSG1	113		1999	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第01部	三間坂	W1	46		1990	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	鳥海	W1	53		2004	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第03部	踊瀬、永尾	W1	47		2005	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第04部	犬走	W1	41		1994	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第05部	船の原	W1	53		2005	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第06部	宮野	W1	68		1980	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第07部	立野川内	W1	92		2003	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第08部	大野	W1	40		1992	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第09部	今山	W1	41		1991	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第10部	下黒髪	W1	19		1981	施設全体として老朽化が進んでいる。

種類	施設名				構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
						建物	その他		
行政施設	消防施設	第9分団 (北方町)	第01部	焼米	W1	58		1972	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第02部	追分、掛橋	W1	58		1970	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第03部	木の元、高野	W1	50		1969	施設全体として老朽化が進んでいる。
			本部・第04部	北方町内、北方、西杵	W1	46		2013	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第05部	東宮裾、西宮裾	W1	50		1987	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第06部	白仁田	W1	24		1973	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第07部	久津具	W1	48		2016	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第08部	馬神、浦田	W1	44		2012	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第09部	杉岳	W1	42		1993	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第10部	大渡、蔵堂、永池	W1	50		2018	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
			第11部	医王寺	W1	50		1975	施設全体として老朽化が進んでいる。
			第12部	梶島、芦原	W1	50		1975	施設全体として老朽化が進んでいる。
公園施設	中央公園	公園			—		3, 517	2007	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ			RC	89		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	丸山公園				—		19, 040	1969	展望台、遊具の老朽化が進んでいる。
	一の坪公園				—		1, 735	1977	遊具の老朽化が進んでいる。
	白岩運動公園	公園			—		190, 402	1979	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		東公衆トイレ			W	17		2002	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		西公衆トイレ			W	61		2012	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		南公衆トイレ			RC	66		1979	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		北公衆トイレ			W	45		2011	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	天神崎公園	公園			—		10, 832	1981	遊具の老朽化が進んでいる。
		公衆トイレ			RC	34		1981	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	迎田緑地				—		27, 951	1980	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	筈町河畔公園				—		903	1993	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	五反田公園				—		1, 600	1994	遊具の老朽化が進んでいる。
	野田公園	公園			—		1, 557	1994	遊具の老朽化が進んでいる。
		公衆トイレ			RC	6		1994	老朽化が進んでいる。
	黒尾町公園				—		2, 501	1995	四阿の老朽化が進んでいる。
	杉橋公園				—		1, 978	1995	パーゴラ、遊具の老朽化が進んでいる。
	梶原公園				—		639	1995	遊具の老朽化が進んでいる。
	山内中央公園	公園			—		43, 705	1989	遊具の老朽化が進んでいる。
		展望台			RC	54		1993	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	きたがた四季の丘公園	公園			—		92, 127	1996	遊具の老朽化が進んでいる。
		管理棟			RC	117		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		資料館・展望台			RC	326		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ			RC	31		1995	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。

種類	施設名		構造	面積（㎡）		設置年	施設の状態
				建物	その他		
公園施設	武雄東児童遊園	公園	—		1,632	1974	遊具の老朽化が進んでいる。
		公衆トイレ	RC	11		1970	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	大渡農村公園	公園	—		7,570	1998	ベンチに腐食・劣化が見受けられる。
		公衆トイレ	W	9		1998	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	北方中央線道路公園	公園	—		2,734	2007	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ	W	15		2007	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	柏岳生活環境保全林		—		29,668	2000	頂上の展望所に一部腐食・劣化がみられる。
	本部ダム公園	公園	—		6,054	1988	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ	RC	13		1988	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	楠川公園	公園	—		10,557	1990	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ	RC	6		1990	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	武雄工業団地児童公園		—		1,254	1990	遊具の老朽化が進んでいる。
	矢筈ダム公園		—		3,245	1992	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	さぎの森公園		—		980	1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	狩立日ノ峰ダム公園	公園	—		15,001	2000	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		公衆トイレ	RC	36		2000	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	宮野町広場	公園	—		749	1996	公園設置以前からある塀が老朽化している。
		公衆トイレ	RC	46		1996	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
	競輪場公園	公園	—		3,157	2017	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。
		管理棟	RC	69		2017	特に損傷はなく、現在のところ安全面などに問題はない。

※RC：鉄筋コンクリート造、SRC：鉄骨鉄筋コンクリート造、S：鉄骨造、LSG：軽量鉄骨造、CB：コンクリートブロック造、W：木造、AL：アルミ造、SUS：ステンレス造

第2章 類型ごとの各施設の評価及び方向性

1 社会教育施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

コミュニティ百堂は、廃校となった杉岳分校の再活用策として利用されており、各町公民館とは設置目的が異なる施設である。そのため、活用度を比較評価することができなかったが、利用者数は極端に少ない施設であり、

性能評価のみを行い、施設の方向性を検討した。

2018 年基準

					A			B		C		D		E		F																	
種類	施設名	構造	建設年度		経過 年数	耐用年数		面 積 (㎡)	経 費 (円)		利用者数 (人)		1㎡あたり コスト (円)		1人あたり コスト(円)		施設利用 (イベント) (回)	性 能						活 用									
			西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数		H30	平均	H30	平均	H30	平均	H30	平均							H30						平均	H30	平均		
社会 教育 施設	武雄公民館	RC3	1975	S50	43	50	7	94	—	2,388,231	—	12,614	—	2,899	—	192	—	663		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			
	橋公民館	W1	2016	H28	2	24	22	629	1,437,470		13,231		2,286		109		832		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	朝日公民館	RC1	1979	S54	39	50	11	669	1,565,602		19,163		2,339		82		817		20	60	60	100	20	52	100	100	100	100	100	100	100	100	
	若木公民館	S1	1984	S59	34	38	4	555	1,552,323		11,248		2,797		138		631		100	60	20	60	20	52	100	60	100	60	80	80	80		
	武内公民館	W1	2014	H26	4	24	20	635	1,577,961		10,505		2,484		150		697		100	100	100	100	100	100	100	60	100	100	90	90	90		
	東川登公民館	S1	1989	H元	29	38	9	597	1,542,864		9,310		2,583		166		470		100	60	100	100	100	92	100	20	100	20	60	60	60		
	西川登公民館	S1	1994	H6	24	38	14	619	1,821,109		5,511		2,943		330		331		100	60	100	60	20	68	100	20	20	20	40	40			
	山内公民館	RC1	1992	H4	26	50	24	632	2,158,317		13,294		3,413		162		625		100	60	100	20	100	76	20	100	100	60	70	70			
	北方公民館事務所棟	RC2	1989	H元	29	50	21	1,715	7,450,204		18,652		4,345		399		897		100	60	100	20	100	76	100	100	20	100	80	80			
	コミュニティ百堂	W1	1955	S30	63	15	▲ 48	169	276,000				395				1,633			699		36		20	20	20	—	20	20	—	—	—	—

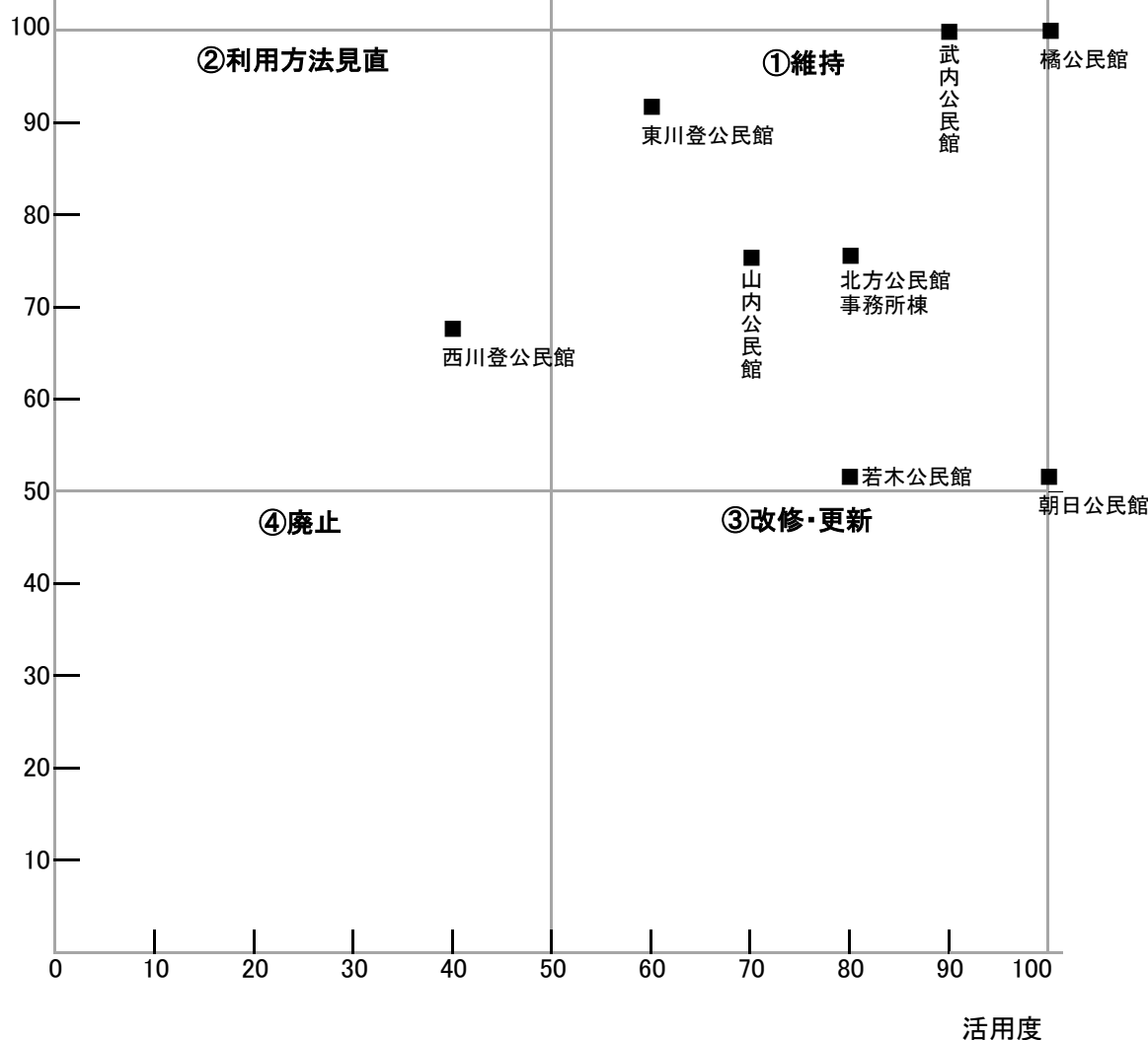
点数	耐震基準 への適合	老朽化の状況	バリアフ リーへの 対応	1㎡当 たりの コスト	避難所機能	性能 評価 5項目 平均点	類似施設 状況	施設利用度	利用者一 人当たり のコスト	イベント 利用度	活用度 評価 4項目 平均点
	100	適 合	問題なし(耐用 年数の期間の 1/2未満)	対 応	安 い	重 要	な し	多 い	安 い	多 い	
	60	対策中 または 対策予定	対策が必要(耐用 年数の期間内 で1/2以上)	一部対応	普 通	利用できる	一部機能 あり	普 通	普 通	普 通	
	20	対策 が必要	老朽化が進行 (耐用年数を過 ぎている)	未対応	高 い	利用 できない	あり	少ない	高 い	少ない	

※武雄公民館は、文化会館の成人棟に事務所を有しているため文化施設で評価を行った。

評価分布

性能度

社会教育施設



施設名	現況	環境に関する情報
橋公民館	平成28年建設で耐震構造。 玄関スロープ有。多目的トイレ有。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。平成30年度に急傾斜地崩壊防止工事が完了したことにより避難所指定。
朝日公民館	昭和54年建設で耐震診断については未実施。 玄関スロープ有。多目的トイレ無。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。東側の斜面が土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)に指定されており、避難所指定はない。
若木公民館	昭和59年建設で耐震構造。 玄関スロープ有(仮設)。多目的トイレ無。 外壁の腐食・損傷あり。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。大雨時に公民館前の市道が冠水した場合は避難所として活用できない。
武内公民館	平成26年建設で耐震構造。 玄関スロープ有。多目的トイレ有。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。
東川登公民館	平成元年建設で耐震構造。 玄関スロープ有。多目的トイレ有。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。
西川登公民館	平成6年建設で耐震構造。 玄関スロープ有。多目的トイレ有。	開館日数は年293日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。南側の斜面が土砂災害警戒区域に指定されており、避難所指定はない。
山内公民館	平成4年建設で耐震構造。 玄関段差なし。多目的トイレ有。	開館日数は年359日。各種講座、土曜文庫、サークル活動、各種団体の会議等が主な利用。
北方公民館事務所棟	平成元年建設で耐震構造。 スロープ・手すり有、多機能トイレ有。	開館日数は年308日。各種講座、スポーツや趣味のサークル活動、各種団体の会議等が主な利用。
コミュニティ百堂	昭和30年建設で非耐震。 バリアフリー非対応。	年間の利用日数は36日。山間部で立地条件も悪く、ほとんどが吹奏楽団の利用。

社会教育施設の方向性について（対策内容と実施時期）

社会教育施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名	構造	面積 (㎡)	設置年	耐用年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	収入 (円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期～R3年度・後期 =R4～R8年度)
							R3年度	R8年度				基本方針	実施方針		
社会 教育 施設	武雄公民館	RC3	94	1975	50	2025	4	▲ 1	—	—	—	施設量 最適化	集約複合化	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 集会棟、成人棟、勤労青少年ホーム棟の集約複合化の中で、武雄公民館として必要な機能及びスペースを確保する。 集約複合化については、建替工事による手法と長寿命化工事による手法の比較検討を行い具体的な整備手法を決定する。	後期
	橋公民館	W1	629	2016	24	2040	19	14	13,231	1,437	0	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	朝日公民館	RC1	669	1979	50	2029	8	3	19,163	1,566	0	安全確保	更新	施設の老朽化に伴い新公民館を建設する。避難所機能を確保するため建設場所は別の場所にする。	前期
	若木公民館	S1	555	1984	38	2022	1	▲ 4	11,248	1,552	0	安全確保	更新	施設の老朽化に伴い新公民館を建設する。	後期
	武内公民館	W1	635	2014	24	2038	17	12	10,505	1,578	0	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	東川登公民館	S1	597	1989	38	2027	6	1	9,310	1,543	0	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	西川登公民館	S1	619	1994	38	2032	11	6	5,511	1,821	0	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。 避難所指定のために、南側斜面の土砂災害対策の検討を行う。	次期計画以降
	山内公民館	RC1	632	1992	50	2042	21	16	13,294	2,158	114,420	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。 山内農村環境改善センターと機能面において一体的利用の側面があり、将来的には山内農村環境改善センターと同時に方向性を検討していく必要がある。	次期計画以降
	北方公民館事務所棟	RC2	1,715	1989	50	2039	18	13	18,652	7,450	291,480	長寿命化等	長寿命化	雨漏りや外壁の老朽化が進んでおり、施設の機能を十分に活用できていないため長寿命化工事を行い施設の延命化を図る。 早急に災害で被災した設備（空調、トイレ、消防設備）の改修を行う。	前期
	コミュニティ百堂	W1	169	1955	15	1970	▲ 51	▲ 56	395	276	0	施設量 最適化	廃止	廃止に向けて、地元と協議する。 廃止後は解体撤去、又は払下げを検討する。	前期

2 文化施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

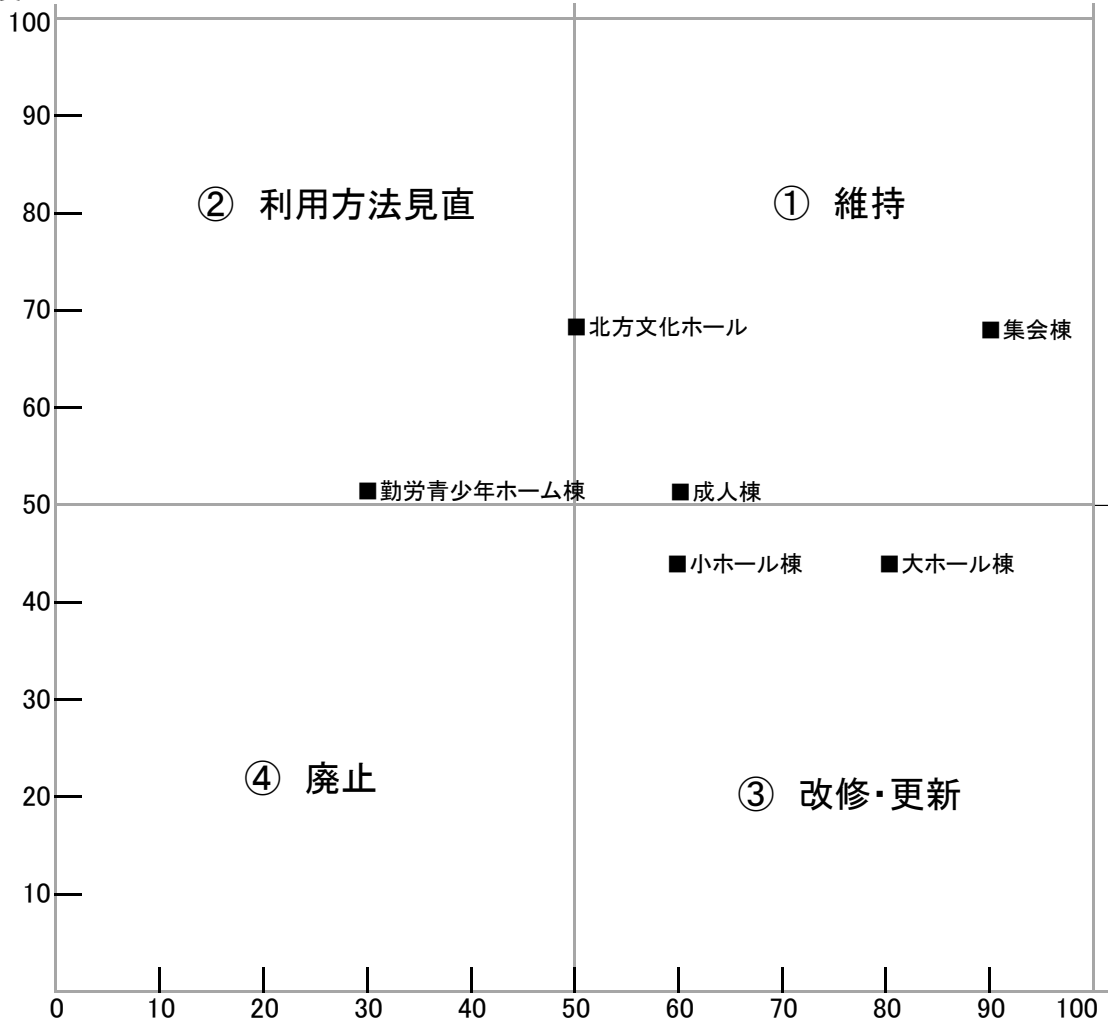
						A			B		C		D	E		F																			
種類	施設名		構造	建設年度		経過 年数	耐用年数		面 積 (㎡)	経 費 (円)		利用者数 (人)		1㎡あたり コスト (円)	1人あたり コスト(円)		施設利用 (イベント) (回)		性 能											活 用					
				西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数		H30	平均	H30	平均	H30	H30	平均	H30	平均																	
文化施設	文化会館	集会棟	RC2	1974	S49	44	50	6	1,052	7,524,813	7,922,990	36,296	26,261	7,153	207	325	873	713		100	60	60	60	60	68	60	100	100	100	90					
		成人棟	RC3	1974	S49	44	50	6	1,190	8,511,909		23,011		7,153	370		667			20	60	60	60	60	52	60	60	60	60						
		勤労青少年ホーム棟	RC2	1972	S47	46	50	4	1,081	7,732,247		19,475		7,153	397		600			20	60	60	60	60	52	60	20	20	20	30					
		大ホール棟	RC4	1974	S49	44	50	6	5,387	48,018,114	26,687,093	82,310	44,311	8,914	583	601	80	130		20	60	20	60	60	44	100	100	60	60	80					
		小ホール棟	RC2	1974	S49	44	50	6	2,979	26,553,919		41,034		8,914	647		245			20	60	20	60	60	44	60	60	20	100	60					
	北方文化ホール		RC2	1989	H元	29	50	21	935	5,489,245		9,590		5,868	572		65			100	60	20	60	100	68	60	20	100	20	50					

		Ⓐ						Ⓒ	Ⓔ	Ⓕ	性能 評価 5項目 平均点	類似施設 状況	施設利用度	利用者一人 当たりのコスト	イベント 利用度	活用度 評価 4項目 平均点
点数	耐震基準 への適合	老朽化の状況	設備改修 の必要性	バリアフ リーへの 対応	避難所機能											
100	適 合	問題なし(耐用 年数の期間の 1/2未満)	無	対 応	重 要							な し	多 い	安 い	多 い	
60	対策中 または 対策予定	対策が必要(耐用 年数の期間内 で1/2以上)	一部必要	一部対応	利用できる							一部の機 能あり	普 通	普 通	普 通	
20	対策が 必要	老朽化が進行 (耐用年数を過 ぎている)	必要	未対応	利用 できない							あ り	少ない	高 い	少ない	

評価分布

文化施設

性能度



活用度

施設名	現況	環境に関する情報
集会棟	集会棟は昭和49年建設で耐震構造(耐震補強不要)。成人棟は昭和49年建設で非耐震。	有料の貸館施設である。中央公民館サークルの利用もある。大集会室、和室研修室や料理実習室などを備えている。
成人棟	(全体として)全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、温度調節ができない。ファンコイル(各部屋の熱交換器)の老朽化による故障が多い。	有料の貸館施設である。中央公民館サークルの利用もある。受付窓口、事務所、武雄公民館が入る。
勤労青少年ホーム棟	昭和47年建設で非耐震。全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、温度調節ができない。ファンコイル(各部屋の熱交換器)の老朽化による故障が多い。	中央公民館サークル等での利用が多い。また、有料による貸館利用も行っている。軽運動室、音楽室、工作室などを備えている。
大ホール棟	昭和49年建設で非耐震。全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、館内の温度調整が難しい。ホワイエ、楽屋廊下で雨漏りあり。音響、照明、舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。	近隣に同規模のホールがないため、コンサートなど大規模な集客イベントに利用されている。
小ホール棟	昭和49年建設で非耐震。全体空調のため、個別利用の要望に応えられず、館内の温度調整が難しい。ミーティングホールで雨漏りあり。音響、照明、舞台設備の点検で多数の指摘事項がある。	講演会など収容人数に応じたイベントに利用されており、喫茶・レストランがある。ミーティングホールでの会議・イベントでの利用や、市民ホールの展示等の機能があり、大ホールイベントの内容によっては待機所やリハーサル場として活用されている。
北方文化ホール	平成元年建設で耐震構造、北方公民館と一体型。雨漏りにより文化ホールホワイエ天井ボードが落下。音響、照明、舞台設備は経年劣化により更新が必要。	中学・高校の吹奏楽の練習や民間のピアノ教室やこども園の発表会が最も多く、収容人数に応じたイベントに利用されている。

文化施設の方向性について（対策内容と実施時期）

文化施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施 設 名		構造	面積 (㎡)	設置年	耐用年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・ 後期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度			基本方針	実施方針		
文化施設	文化会館	集会棟	RC2	1,052	1974	50	2024	3	▲ 2	36,296	7,525	施設量最適化	集約複合化 (長寿命化工事による集約複合化を含む)	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 集会棟、成人棟、勤労青少年ホーム棟については集約複合化を基本とする。集約複合化する施設は、小ホール棟のホール部分以外の機能や勤労者福祉会館とする。 武雄公民館は、公民館としての必要な機能及びスペースを確保する。 集約複合化については、建替工事による手法と長寿命化工事による手法の比較検討を行い具体的な整備手法を決定する。	後期
		成人棟	RC3	1,190	1974	50	2024	3	▲ 2	23,011	8,512				
		勤労青少年ホーム棟	RC2	1,081	1972	50	2022	1	▲ 4	19,475	7,732	施設量最適化	集約複合化 (長寿命化工事による集約複合化を含む)	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 集会棟、成人棟、勤労青少年ホーム棟については集約複合化を基本とする。集約複合化する施設は、小ホール棟のホール部分以外の機能や勤労者福祉会館とする。 武雄公民館は、公民館としての必要な機能及びスペースを確保する。 勤労青少年ホームは法的な義務付けが無くなっているため、現在の必要機能を再検証する。 集約複合化については、建替工事による手法と長寿命化工事による手法の比較検討を行い具体的な整備手法を決定する。	後期
		大ホール棟	RC4	5,387	1974	50	2024	3	▲ 2	82,310	48,018	長寿命化等	長寿命化	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 近隣に同規模の機能を有する施設がないため、耐震補強工事をはじめとして長寿命化に必要な改修を行っていく。	後期
		小ホール棟	RC2	2,979	1974	50	2024	3	▲ 2	41,034	26,554	施設量最適化	統廃合	文化会館エリアについては全体的な整備計画を策定し、実施方針を決定する。 小ホールは北方文化ホールが機能、規模とも類似しており統合を検討する。ただし小ホール棟にはミーティングホール、市民ホール、レストランの機能など現文化会館エリアに必要な機能もあるため、統廃合の場合は現文化会館エリアに必要な機能を整備する。	後期
	北方文化ホール		RC2	935	1989	50	2039	18	13	9,590	5,489	長寿命化等	長寿命化	雨漏りや音響設備の老朽化が進んでおり、施設の機能を十分に活用できていないため長寿命化工事を行い施設の延命化を図る。 早急に災害で被災した設備（空調、トイレ、消防設備）の復旧を行う。 施設の延命化とともに文化会館小ホール（ホール部分）の機能を集約化する。	前期

3 学校教育・児童福祉施設の評価

学校教育・児童福祉施設については、活用度の重要な指標の一つである利用者（児童生徒）数がその区域の人口に比例しており、学校の配置に関する今後の施設のあり方については、児童生徒数、通学距離、地域の実情などを踏まえて、全市的に検討していくこととし、本計画では現在の施設をどのように維持していくかを検討した。

2018 年基準																点数	耐震基準への適合健全度	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	維持管理費の妥当性（1㎡あたりのコスト）	避難所機能	性能評価 平均点	
校区	学校名	施設名	構造	建設年度		経過 年数	耐用年数		面積	改修履歴	委託・光熱水費 (円)	修繕費 (10万以上) (円)	生徒数 (人)	1人あたり コスト (円)	1㎡あたりコスト (円)		60	対策中または 対策予定	対策が必要(耐 用年数の期間内 で1/2以上)	一部対応	平均		重要 (指定避難所)
				西暦	和暦		耐用 年数	耐用残年 数			H28 - H30平均	H28 - H30平均	H30	H28 - H30平均	H28 - H30平均	平均	20	対策が必要	老朽化が進行 (耐用年数が 過ぎている)	未対応	平均より多い		利用できる
武雄中校区	武雄中学校	校舎(管理棟等)	RC2	1981	S56	37	47	10	1,996	H24・H25大規模改造	11,900,471	1,608,822	631	21,409	1,663	1,628		100	100	100	60	100	92
		校舎（普通教室棟）	RC3	2012	H24	6	47	41	4,521									100	100	100		100	92
		屋内運動場	RC2	2016	H28	2	47	45	1,607									100	100	100		100	92
		武道場	W1	2014	H26	4	22	18	486									100	100	100		60	84
		大プール	AL	1976	S51	42	30	▲ 12	450									—	20	—		—	40
	武雄小学校	校舎(特別教室棟)	RC2	1979	S54	39	47	8	890	H22大規模改造	8,109,862	1,576,080	351	27,595	1,741			100	100	100	60	100	92
		校舎（管理・教室棟）	RC3	2013	H25	5	47	42	3,490									100	100	100		100	92
		屋内運動場	RC1	2015	H27	3	47	44	1,184									100	100	100		100	92
		大プール	RC	1954	S29	64	30	▲ 34	375									—	20	—		—	40
		小プール	SUS	1982	S57	36	30	▲ 6	200									—	20	—		—	40
	御船が丘小学校	校舎（管理・教室棟）	RC2	1992	H4	26	47	21	5,850		9,608,618	2,590,267	655	18,624	1,619			100	60	100	60	100	84
		校舎（教室棟）	RC2	2002	H14	16	47	31	421	H14増築								100	100	100		100	92
		屋内運動場	RC2	1993	H5	25	47	22	1,265									100	60	100		100	84
		大プール	FRP	1993	H5	25	30	5	350									—	60	—		—	60
		小プール	FRP	1993	H5	25	30	5	55									—	60	—		—	60
	朝日小学校	校舎（管理・教室棟）	RC3	1970	S45	48	47	▲ 1	2,391	H14大規模改造	7,687,024	1,047,960	443	19,718	1,519			100	100	100	60	100	92
		校舎(特別教室棟)	RC3	2004	H16	14	47	33	2,207									100	100	100		100	92
		屋内運動場	S1	1987	S62	31	34	3	1,151									100	60	100		100	84
		大プール	RC	1965	S40	53	30	▲ 23	375									—	20	—		—	40
		小プール	RC	1965	S40	53	30	▲ 23	120									—	20	—		—	40
	橘小学校	校舎（教室棟等）	RC2	1998	H10	20	47	27	2,764		5,705,559	836,397	136	48,103	1,598			100	100	100	60	100	92
		屋内運動場	RC1	2002	H14	16	47	31	1,197									100	100	100		100	92
		武道場	S1	1982	S57	36	34	▲ 2	132									100	20	100		20	60
		大プール	RC	1967	S42	51	30	▲ 21	300									—	20	—		—	40
		小プール	RC	1971	S46	47	30	▲ 17	72									—	20	—		—	40

2018 年基準

2018 年基準																点数	耐震基準への適合健全度	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	維持管理費の妥当性（1㎡あたりのコスト）	避難所機能	性能評価 平均点	
校区	学校名	施設名	構造	建設年度		経過年数	耐用年数		面積	改修履歴	委託・光熱水費 (円)	修繕費 (10万以上) (円)	生徒数 (人)	1人あたりコスト (円)	1㎡あたりコスト (円)		60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2未満)	一部対応	平均		重要(指定避難所)
				西暦	和暦		耐用年数	耐用残年数							H28 - H30平均	H28 - H30平均	H30	H28 - H30平均	H28 - H30平均	平均	20		対策が必要
武雄北中校区	武雄北中学校	校舎(教室棟・管理棟)	RC3	1976	S51	42	47	5	3,183	H14・H29・H30・H31大規模改造	6,699,482	1,185,158	97	81,285	1,822	1,899	100	100	100	60	100	92	
		技術室	S1	1976	S51	42	34	▲ 8	180								20	20	100		60	52	
		屋内運動場	S1	1977	S52	41	34	▲ 7	861	H12大規模改造							100	100	100		100	92	
		屋内運動場	S1	2001	H13	17	34	17	103	H13増築							100	100	100		100	92	
		大プール	AL	1979	S54	39	30	▲ 9	400								—	20	—		—	40	
	若木小学校	校舎(特別教室棟)	RC2	1996	H8	22	47	25	1,334		5,281,749	1,976,220	76	95,500	2,083		100	100	100	60	100	92	
		校舎(普通教室棟)	W1	1996	H8	22	22	0	896								100	60	100		100	84	
		屋内運動場	RC2	2003	H15	15	47	32	1,255								100	100	100		100	92	
		大プール	RC	1968	S43	50	30	▲ 20	375								—	20	—		—	40	
		小プール	FRP	1988	S63	30	30	0	90								—	20	—		—	40	
	武内小学校	校舎(特別教室棟等)	RC2	1999	H11	19	47	28	1,263		6,120,501	936,360	136	51,889	1,792		100	100	100	60	100	92	
		校舎(管理・教室棟)	W1	1999	H11	19	22	3	1,498								100	60	100		100	84	
		屋内運動場	RC1	1994	H6	24	47	23	1,178								100	60	100		100	92	
		大プール	RC	1973	S48	45	30	▲ 15	375								—	20	—		—	40	
		小プール	RC	1973	S48	45	30	▲ 15	70								—	20	—		—	40	
川登中校区	川登中学校	校舎(管理・教室棟)	RC3	1967	S42	51	47	▲ 4	2,710	H10・H14大規模改造	5,887,078	851,940	116	58,095	1,749	1,684	100	100	100	60	100	92	
		技術室	S1	1967	S42	51	34	▲ 17	220	H27大規模改造							100	100	100		60	84	
		音楽室	W1	1967	S42	51	22	▲ 29	119	H27大規模改造							100	100	100		60	84	
		屋内運動場	S2	1969	S44	49	34	▲ 15	804	H11大規模改造							100	100	100		100	92	
		大プール	AL	1980	S55	38	30	▲ 8	400								—	20	—		—	40	
	西川登小学校	校舎(教室棟)	RC3	1974	S49	44	47	3	1,493	H20大規模改造	5,349,399	1,120,364	90	71,886	1,637		100	100	100	60	100	92	
		校舎(管理・特別教室棟)	RC3	2009	H21	9	47	38	1,268								100	100	100		100	92	
		屋内運動場	RC1	1997	H9	21	47	26	1,191								100	100	100		60	92	
		大プール	RC	1972	S47	46	30	▲ 16	325								—	20	—		—	40	
		小プール	RC	1972	S47	46	30	▲ 16	70								—	20	—		—	40	
	東川登小学校	校舎(教室棟)	RC3	1971	S46	47	47	0	1,373	H18大規模改造	5,644,991	910,836	91	72,042	1,666		100	100	100	60	100	92	
		校舎(管理・特別教室棟)	RC2	2008	H20	10	47	37	1,369								100	100	100		100	92	
		屋内運動場	RC1	1995	H7	23	47	24	1,192								100	100	100		60	92	
		大プール	RC	1973	S48	45	30	▲ 15	375								—	20	—		—	40	
		小プール	RC	1973	S48	45	30	▲ 15	70								—	20	—		—	40	

2018 年基準

2018 年基準																点数	耐震基準への適合健全度	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	維持管理費の妥当性（1㎡あたりのコスト）	避難所機能	性能評価 平均点						
																100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	対応	平均より少ない	重要(指定避難所)							
校区	学校名	施設名	構造	建設年度		経過年数	耐用年数		面積	改修履歴	委託・光熱水費(円)	修繕費(10万以上)(円)	生徒数(人)	1人あたりコスト(円)	1㎡あたりコスト(円)		60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部対応	平均		利用できる					
				西暦	和暦		耐用年数	耐用残年数					H28～H30平均	H28～H30平均	H30	H28～H30平均	H28～H30平均	平均	20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数が過ぎている)	未対応	平均より多い	利用できない				
山内中校区	山内中学校	校舎(特別教室棟)	RC2	1978	S53	40	47	7	1,415	H23大規模改造	7,660,062	374,760	209	38,444	1,338	1,647		100	100	100	60	100	92					
		校舎(管理・教室棟)	RC3	2014	H26	4	47	43	3,182															100	100	100	100	92
		屋内運動場	RC1	1995	H7	23	47	24	1,410															100	100	100	100	92
	山内東小学校	校舎(校舎棟)	RC3	1990	H2	28	47	19	3,651		6,682,176	2,285,880	230	38,992	1,958			100	60	100	60	100	84					
		屋内運動場	RC2	1990	H2	28	47	19	930													100	60	100	100	84		
		大プール	RC	1959	S34	59	30	▲29	375													—	20	—	—	40		
		小プール	RC	1959	S34	59	30	▲29	100													—	20	—	—	40		
	山内西小学校	校舎(教室棟等)	RC3	1985	S60	33	47	14	3,664		6,083,557	1,133,532	240	30,071	1,645			100	60	100	60	100	84					
		屋内運動場	S1	1978	S53	40	34	▲6	724	H28大規模改造								100	100	100		100	100	92				
		大プール	RC	1970	S45	48	30	▲18	375										20	—		—	40					
		小プール	RC	1970	S45	48	30	▲18	120										20	—		—	40					
	山内東小学校犬走分校	校舎(校舎棟)	W1	1999	H11	19	22	3	378		375,219	0	4	93,805	704		678		100	60	100	60	60	76				
		校舎(校舎棟)	S1	1999	H11	19	34	15	155										100	100	100		60	60	84			
	山内東小学校舟原分校	校舎(校舎棟)	W1	2004	H16	14	22	8	365		434,973	0	10	43,497	656				100	60	100	60	60	76				
		屋内運動場	S1	2004	H16	14	34	20	298										100	100	100		60	60	84			
	山内西小学校立野川内分校	校舎(校舎棟)	W1	2006	H18	12	22	10	376		452,042	0	9	50,227	674				100	60	100	60	60	76				
		屋内運動場	S1	2006	H18	12	34	22	295										100	100	100		60	60	84			
北方中校区	北方中学校	校舎(管理特別教室棟等)	RC4	1982	S57	36	47	11	4,372	H16・H19・H27大規模改造	4,691,493	1,606,372	173	36,404	1,003	947			100	60	100	60	100	84				
		技術室	S1	1982	S57	36	34	▲2	264											100	20		100	60	60	68		
		屋内運動場	RC2	1983	S58	35	47	12	1,644									H18大規模改造		100	60		100	100	100	84		
	北方小学校	校舎(教室棟・管理棟)	RC3	1974	S49	44	47	3	4,459	H6・H7・H27・H28・H29・H30・H31大規模改造	4,536,030	806,080	364	14,676	892					100	100	100	60	100	92			
		校舎(教室棟)	RC3	1983	S58	35	47	12	533										H29・H30大規模改造		100	100		100	100	100	92	
		屋内運動場	S1	1974	S49	44	34	▲10	1,000									H6・H25大規模改造			100	100		100	100	100	92	
		大プール	RC	1974	S49	44	30	▲14	425												—	20		—	—	40		
		小プール	RC	1974	S49	44	30	▲14	150												—	20		—	—	40		
		北方給食センター	給食センター	S1	2000	H12	18	31	13											569		28,199,226		994,788	537	54,365	51,308	—

2018 年基準

2018 年基準																	点数	耐震基準への適合健全度	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	維持管理費の妥当性（1㎡あたりのコスト）	避難所機能	性能評価				
校区	学校名	施設名	構造	建設年度		経過年数	耐用年数		面積	改修履歴	委託・光熱水費 (円)	修繕費 (10万以上) (円)	生徒数 (人)	1人あたり コスト (円)	1㎡あたりコスト (円)		60	100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	対応	平均より少ない		重要 (指定避難所)			
				西暦	和暦		耐用年数	耐用残年数							H28 - H30平均	H28 - H30平均	H30	H28 - H30平均	H28 - H30平均	平均	20	対策中または 対策予定		対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部対応	平均	利用できる
																					20	対策が必要		老朽化が進行 (耐用年数が過ぎている)	未対応	平均より多い	利用できない
放課後児童クラブ	武雄児童クラブ（武雄小）		RC2	1982	S57	36	47	11	1,382		495,451	584,758	100	10,802	782	986	100	60	20	60	60	60					
	御船ひかりっこクラブ（御船小）		W1	2010	H22	8	22	14	163		0	8,892	104	86	55		100	60	60	100	60	76					
	御船ゆめっこクラブ(御船小)		W1	2017	H29	1	22	21	208		142,422	12,773	76	2,042	745		100	100	60	60	60	76					
	風の子クラブ（山内東小）		W1	2004	H16	14	22	8	73		131,601	3,333	64	2,108	1,852		100	60	60	20	60	60					
	ひまわり教室（山内西小）		W1	2004	H16	14	22	8	95		222,971	12,417	70	3,363	2,485		100	60	60	20	60	60					
	あおぞら教室（北方小）		RC3	1974	S49	44	47	3	199	H29・H30大規模改修	0	0	114	0	0		100	100	100	60	100	92					

※あおぞら教室は、北方小学校(校舎)と一体型であるため同評価としている。

学校教育・児童福祉施設の現況と方向性について（対策内容と実施時期）

学校教育・児童福祉施設の現況と今後の方向性については、次のとおりとする。

校区	学校名	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		利用者 (人)	委託費 光熱費 (千円)	修繕費 (10万円以上) (円)	現 況	環境情報	方 針		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後期 =R4～R8年度)
								R3 年度	R8 年度						基本方針	実施方針		
武雄中校区	武雄中学校	校舎(管理棟等)	RC2	1,996	1981	47	2028	7	2	631	11,900	1,608,822	昭和56年建設で平成24年に耐震補強、平成25年に老朽に伴う大規模改造工事実施。バリアフリー対応。	市内中学校で一番生徒数が多い大規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 834人 H20 733人 H25 665人 H30 631人 H20→H30（10年間の増減率） 13.9%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（普通教室棟）	RC3	4,521	2012	47	2059	38	33				平成24年建設で新耐震基準対応。太陽光発電の設置。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC2	1,607	2016	47	2063	42	37				平成28年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		武道場	W1	486	2014	22	2036	15	10				平成26年建設で新耐震基準対応。市内の屋内運動場等で唯一空調設備設置。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	AL	450	1976	30	2006	▲ 15	▲ 20				昭和51年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成21年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	武雄小学校	校舎（特別教室棟）	RC2	890	1979	47	2026	5	0	351	8,110	1,576,080	昭和54年建設で平成22年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事実施。バリアフリー対応。	市内小学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 411人 H20 372人 H25 364人 H30 351人 H20→H30（10年間の増減率） 5.6%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（管理・教室棟）	RC3	3,490	2013	47	2060	39	34				平成25年建設で新耐震基準対応。太陽光発電の設置。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,184	2015	47	2062	41	36				平成27年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1954	30	1984	▲ 37	▲ 42				昭和29年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成13年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	後期
		小プール	SUS	200	1982	30	2012	▲ 9	▲ 14				昭和57年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成13年にろ過機の更新を行っている。					
	御船が丘小学校	校舎（管理・教室棟）	RC2	5,850	1992	47	2039	18	13	655	9,609	2,590,267	平成4年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。	市内小学校で一番生徒数が多い大規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 715人 H20 724人 H25 654人 H30 655人 H20→H30（10年間の増減率） 9.5%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（教室棟）	RC2	421	2002	47	2049	28	23				平成14年築で新耐震基準対応。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC2	1,265	1993	47	2040	19	14				平成5年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	FRP	350	1993	30	2023	2	▲ 3				平成5年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	後期
		小プール	FRP	55	1993	30	2023	2	▲ 3				平成5年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。					
	朝日小学校	校舎（管理・教室棟）	RC3	2,391	1970	47	2017	▲ 4	▲ 9	443	7,687	1,047,960	昭和45年建設で平成14年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事実施。バリアフリー対応。 職員の増加により職員室が手狭になっており改修が必要。	市内小学校で生徒数が多い大規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 442人 H20 414人 H25 409人 H30 443人 H20→H30（10年間の増減率） 7%増加	長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理を行い、存続する。 手狭になっている職員室の改修工事を行う。	前期
		校舎（特別教室棟）	RC3	2,207	2004	47	2051	30	25				平成16年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	1,151	1987	34	2021	0	▲ 5				昭和62年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1965	30	1995	▲ 26	▲ 31				昭和40年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成13年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	後期
		小プール	RC	120	1965	30	1995	▲ 26	▲ 31				昭和40年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成15年にろ過機の更新を行っている。					

校区	学校名	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		利用者 (人)	委託費 光熱費 (千円)	修繕費 (10万円以上) (円)	現 況	環境情報	方 針		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後期 =R4～R8年度)
								R 3 年度	R 8 年度						基本方針	実施方針		
武雄中校区	橘小学校	校舎 (教室棟等)	RC2	2,764	1998	47	2045	24	19	136	5,706	836,397	平成10年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。	市内小学校で中規模校。 避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 134人 H20 118人 H25 108人 H30 136人 H20～H30（10年間の増減率） 15.3%増	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,197	2002	47	2049	28	23				平成14年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		武道場	S1	132	1982	34	2016	▲ 5	▲ 10				昭和57年建設。床、壁等劣化が見られる。今後、老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれる。		長寿命化等	維持修繕	供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	300	1967	30	1997	▲ 24	▲ 29				昭和42年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成9年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	前期
		小プール	RC	72	1971	30	2001	▲ 20	▲ 25				昭和46年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成9年にろ過機の更新を行っている。					
武雄北中校区	武雄北中学校	校舎 (教室棟・管理棟)	RC3	3,183	1976	47	2023	2	▲ 3	97	6,699	1,185,158	昭和51年建設で、平成14年にエレベーター増築工事を実施。平成29年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事及び太陽光発電の設置工事を実施。平成31年まで引き続き大規模改修工事を実施。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。	市内中学校で小規模校。 避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 141人 H20 147人 H25 121人 H30 97人 H20～H30（10年間の増減率） 34%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		技術室	S1	180	1976	34	2010	▲ 11	▲ 16				昭和51年建設。経年による劣化が見られる。今後、老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれる。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	861	1977	34	2011	▲ 10	▲ 15				昭和52年建設で平成12年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	103	2001	34	2035	14	9				平成13年増築で新耐震基準対応。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	AL	400	1979	30	2009	▲ 12	▲ 17				昭和54年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成24年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	若木小学校	校舎 (特別教室棟)	RC2	1,334	1996	47	2043	22	17	76	5,282	1,976,220	平成8年建設で新耐震基準対応。バリアフリー対応。	市内小学校で小規模校。 避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 117人 H20 120人 H25 88人 H30 76人 H20～H30（10年間の増減率） 36.7%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎 (普通教室棟)	W1	896	1996	22	2018	▲ 3	▲ 8				平成8年建設で新耐震基準対応。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC2	1,255	2003	47	2050	29	24				平成15年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1968	30	1998	▲ 23	▲ 28				昭和43年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成27年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		小プール	FRP	90	1988	30	2018	▲ 3	▲ 8				昭和63年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成27年にろ過機の更新を行っている。					
	武内小学校	校舎(特別教室棟等)	RC2	1,263	1999	47	2046	25	20	136	6,121	936,360	平成11年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。	市内小学校で小規模校。 避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 163人 H20 165人 H25 120人 H30 136人 H20～H30（10年間の増減率） 17.6%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎 (管理・教室棟)	W1	1,498	1999	22	2021	0	▲ 5				平成11年建設で新耐震基準対応。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,178	1994	47	2041	20	15				平成6年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1973	30	2003	▲ 18	▲ 23				昭和48年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成18年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		小プール	RC	70	1973	30	2003	▲ 18	▲ 23				昭和48年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成18年にろ過機の更新を行っている。					

校区	学校名	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		利用者 (人)	委託費 光熱費 (千円)	修繕費 (10万円以上) (円)	現 況	環境情報	方 針		内 容	対策の実施時期 (前期=R3年度・後期 =R4～R8年度)
								R 3 年度	R 8 年度						基本方針	実施方針		
川 登 中 校 区	川登中学校	校舎 (管理・教室棟)	RC3	2,710	1967	47	2014	▲ 7	▲ 12	116	5,887	851,940	昭和42年建設で平成10年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事を実施。平成23年にエレベーター増築工事を実施。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。	市内中学校で小規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 196人 H20 157人 H25 109人 H30 116人 H20→H30（10年間の増減率） 26.1%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		技術室	S1	220	1967	34	2001	▲ 20	▲ 25				昭和42年建設で平成27年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事を実施。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		音楽室	W1	119	1967	22	1989	▲ 32	▲ 37				昭和42年建設で平成27年に老朽に伴う大規模改造工事を実施。バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S2	804	1969	34	2003	▲ 18	▲ 23				昭和44年建設で平成11年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	AL	400	1980	30	2010	▲ 11	▲ 16				昭和55年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成22年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	西川登小学校	校舎 (教室棟)	RC3	1,493	1974	47	2021	0	▲ 5	90	5,349	1,120,364	昭和49年建設で平成20年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事を実施。バリアフリー対応。	市内小学校で小規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 107人 H20 94人 H25 107人 H30 90人 H20→H30（10年間の増減率） 4.3%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎 (管理・特別教室棟)	RC3	1,268	2009	47	2056	35	30				平成21年建設で新耐震基準対応。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,191	1997	47	2044	23	18				平成9年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	325	1972	30	2002	▲ 19	▲ 24				昭和47年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成15年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		小プール	RC	70	1972	30	2002	▲ 19	▲ 24				昭和47年建設。全体的に老朽化が進んでおり、ろ過機の部品交換や配管等の補修を行っている。平成15年にろ過機の更新を行っている。					
	東川登小学校	校舎 (教室棟)	RC3	1,373	1971	47	2018	▲ 3	▲ 8	91	5,645	910,836	昭和46年建設で平成18年に耐震補強、老朽に伴う大規模改造工事を実施。バリアフリー対応。	市内小学校で小規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 178人 H20 143人 H25 105人 H30 91人 H20→H30（10年間の増減率） 36.4%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎 (管理・特別教室棟)	RC2	1,369	2008	47	2055	34	29				平成20年建設で新耐震基準対応。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,192	1995	47	2042	21	16				平成7年建設で新耐震基準対応。身障者用トイレやスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1973	30	2003	▲ 18	▲ 23				昭和48年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成18年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		小プール	RC	70	1973	30	2003	▲ 18	▲ 23				昭和48年建設。全体的に老朽化が進んでいる。平成18年にろ過機の更新を行っている。					
山 内 中 校 区	山内中学校	校舎 (特別教室棟)	RC2	1,415	1978	47	2025	4	▲ 1	209	7,660	374,760	昭和53年建設で新耐震基準対応。平成23年度に老朽に伴う大規模改造工事を実施。バリアフリー対応。	市内中学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 318人 H20 288人 H25 259人 H30 209人 H20→H30（10年間の増減率） 27.4%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（管理・教室棟）	RC3	3,182	2014	47	2061	40	35				平成26年建設で新耐震基準対応。太陽光発電の設置。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC1	1,410	1995	47	2042	21	16				平成7年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	山内東小学校	校舎（校舎棟）	RC3	3,651	1990	47	2037	16	11	230	6,682	2,285,880	平成2年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。今後、屋根の防水シート経年劣化に伴う改修が必要。	市内小学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 250人 H20 238人 H25 229人 H30 230人 H20→H30（10年間の増減率） 36.4%減少	長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。 屋根の痛みにより雨漏りがみられるため改修工事を行う。	前期
		屋内運動場	RC2	930	1990	47	2037	16	11				平成2年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1959	30	1989	▲ 32	▲ 37				昭和34年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成31年にろ過機の更新、配管の改修及びプール内面の補修を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	後期
		小プール	RC	100	1959	30	1989	▲ 32	▲ 37				昭和34年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成31年にろ過機の更新、配管の改修及びプール内面の補修を行っている。					

校区	学校名	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		利用者 (人)	委託費 光熱費 (千円)	修繕費 (10万円以上) (円)	現 況	環境情報	方 針		内 容	対策の実施時期 (前期=R3年度・後期 =R4～R8年度)
								R 3 年度	R 8 年度						基本方針	実施方針		
山 内 中 校 区	山内西小学校	校舎（教室棟等）	RC3	3,664	1985	47	2032	11	6	240	6,084	1,133,532	昭和60年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。今後、老朽化に伴う大規模改修が必要になってくる。	市内小学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 301人 H20 289人 H25 246人 H30 240人 H20→H30（10年間の増減率） 17%減少	長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。建築後40年で大規模改修工事を行う。	後期
		屋内運動場	S1	724	1978	34	2012	▲ 9	▲ 14				昭和53年建設で平成28年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	375	1970	30	2000	▲ 21	▲ 26				昭和45年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成29年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		小プール	RC	120	1970	30	2000	▲ 21	▲ 26				昭和45年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成29年にろ過機の更新を行っている。					
	山内東小学校 大走分校	校舎（校舎棟）	W1	378	1999	22	2021	0	▲ 5	4	375	0	平成11年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。	分校の為、生徒数は少ない。避難所等防災拠点の指定はない。 【生徒数推移】 H18 11人 H20 15人 H25 9人 H30 4人 H20→H30（10年間の増減率） 73.3%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（校舎棟）	S1	155	1999	34	2033	12	7				平成11年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	山内東小学校 舟原分校	校舎（校舎棟）	W1	365	2004	22	2026	5	0	10	435	0	平成16年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。	分校の為、生徒数は少ない。避難所等防災拠点の指定はない。 【生徒数推移】 H18 13人 H20 16人 H25 10人 H30 10人 H20→H30（10年間の増減率） 37.5%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	298	2004	34	2038	17	12				平成16年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	山内西小学校 立野川内分校	校舎（校舎棟）	W1	376	2006	22	2028	7	2	9	452	0	平成18年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。	分校の為、生徒数は少ない。避難所等防災拠点の指定はない。 【生徒数推移】 H18 10人 H20 16人 H25 10人 H30 9人 H20→H30（10年間の増減率） 43.8%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	295	2006	34	2040	19	14				平成18年建設で新耐震基準対応。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
北 方 中 校 区	北方中学校	校舎（管理特別教室棟等）	RC4	4,372	1982	47	2029	8	3	173	4,691	1,606,372	昭和57年建設で平成16年及び平成19年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事を実施。平成27年にエレベーター増築増築工事を実施。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。	市内中学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 245人 H20 235人 H25 202人 H30 173人 H20→H30（10年間の増減率） 26.4%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		技術室	S1	264	1982	34	2016	▲ 5	▲ 10				昭和57年建設。経年による劣化が見られる。今後、老朽化に伴い維持管理費の増加が見込まれる。今後、屋根の防水シート経年劣化に伴う改修が必要。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	RC2	1,644	1983	47	2030	9	4				昭和58年建設で平成18年度に老朽に伴う大規模改修工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	北方小学校	校舎（教室棟・管理棟）	RC3	4,459	1974	47	2021	0	▲ 5	364	4,536	806,080	昭和49年建設で平成27年から平成29年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事及びエレベーター増築工事を実施。太陽光発電の設置。平成31年まで引き続き大規模改修工事を実施。エレベーターや身障者用トイレ及びスロープ等バリアフリー対応。	市内小学校で中規模校。避難所等防災拠点の指定になっている。 【生徒数推移】 H18 493人 H20 470人 H25 426人 H30 364人 H20→H30（10年間の増減率） 22.6%減少	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		校舎（教室棟）	RC3	533	1983	47	2030	9	4				昭和58年増築で平成29年に老朽に伴う大規模改修工事を実施。平成30年まで引き続き大規模改修工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		屋内運動場	S1	1,000	1974	34	2008	▲ 13	▲ 18				昭和49年建設で平成6年及び平成25年に耐震補強、老朽に伴う大規模改修工事を実施。スロープ等バリアフリー対応。		長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		大プール	RC	425	1974	30	2004	▲ 17	▲ 22				昭和49年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成14年にろ過機の更新を行っている。		長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理及び改修を行い、供用限界まで施設を維持する。	後期
		小プール	RC	150	1974	30	2004	▲ 17	▲ 22				昭和49年建設。全体的に老朽化が進んでおり、平成14年にろ過機の更新を行っている。					

校区	学校名	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		利用者 (人)	委託費 光熱費 (千円)	修繕費 (10万円以上) (円)	現 況	環境情報	方 針		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後期 =R4～R8年度)
								R 3 年度	R 8 年度						基本方針	実施方針		
北 方 中 校 区	北方給食センター	給食センター	S1	569	2000	31	2031	10	5	537	28	995	築18年経過により修繕を要する箇所が出てきている。(雨漏り、内壁破損、排水管漏水、給食調理備品等)	武雄市内で唯一の給食センターで北方小中学校児童生徒約550人分の給食を調理・配達している。また、災害時の食料支援のための調理施設となっている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
放 課 後 児 童 ク ラ ブ	武雄児童クラブ (武雄小)		RC2	1,382	1982	47	2029	8	3	100	495	584,758	平成29年耐震診断を実施(結果:2階閉鎖の場合耐震補強必要無) 築37年が経過し、老朽化が目立っており、現施設を継続利用するならば大規模改修が必要。	武雄保育所の民営化に伴い、平成28年9月に旧武雄保育所で児童クラブを開設した。 【利用者推移】 H28 108 H29 106 H30 76	施設量最適化	集約 複合化	老朽化が激しいため、武雄小学校空きスペースを利用し、集約複合化を行う。	前期
	御船ひかりっこクラブ (御船小)		W1	163	2010	22	2032	11	6	104	0	8,892	平成22年3月建設で現在特に改修等の必要性はない。	児童クラブ利用者数増に伴い、学校施設内では対応できなくなり専用施設の建設を平成22年3月に行った。 【利用者推移】 H28 92 H29 114 H30 97	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	御船ゆめっこクラブ (御船小)		W1	208	2017	22	2039	18	13	76	142	12,773	平成29年3月建設で現在特に改修等の必要性はない。	児童クラブ利用者数増に伴い、平成22年3月に建設した専用施設で対応できなくなり、新たに専用施設の建設を平成29年3月に行った。 【利用者推移】 H28 65 H29 68 H30 98	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	風の子クラブ (山内東小)		W1	73	2004	22	2026	5	0	64	132	3,333	平成16年9月建設で現在特に改修等の必要性はない。	専用施設のみで運営できる利用児童数である。 【利用者推移】 H28 69 H29 62 H30 58	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	ひまわり教室 (山内西小)		W1	95	2004	22	2026	5	0	70	223	12,417	平成16年9月建設で現在特に改修等の必要性はない。	児童クラブ利用者数増に伴い、専用施設及び学校施設空きスペースを利用しながら、運営を行っている。更なる利用者増があるため、隣接する民間施設(社福 正和福祉会)と連携しながら運営を行っている。 【利用者推移】 H28 66 H29 72 H30 75	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	あおぞら教室 (北方小)		RC3	199	1974	47	2021	0	▲ 5	114	0	0	平成29・30年度に大規模改修工事を行ったため、現在特に改修等の必要性はない。	一部専用施設で多目的室を学校から借用している。 【利用者推移】 H28 86 H29 99 H30 92	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降

4 観光施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

観光交流センターは、武雄温泉駅内にあり駅の利用者数は年間65万人と多くの利用があるものの、他の観光施設との比較が困難であり、施設もまだ新しいことから、本計画では現在の施設をどのように維持していくかを検討した。

2018 年基準

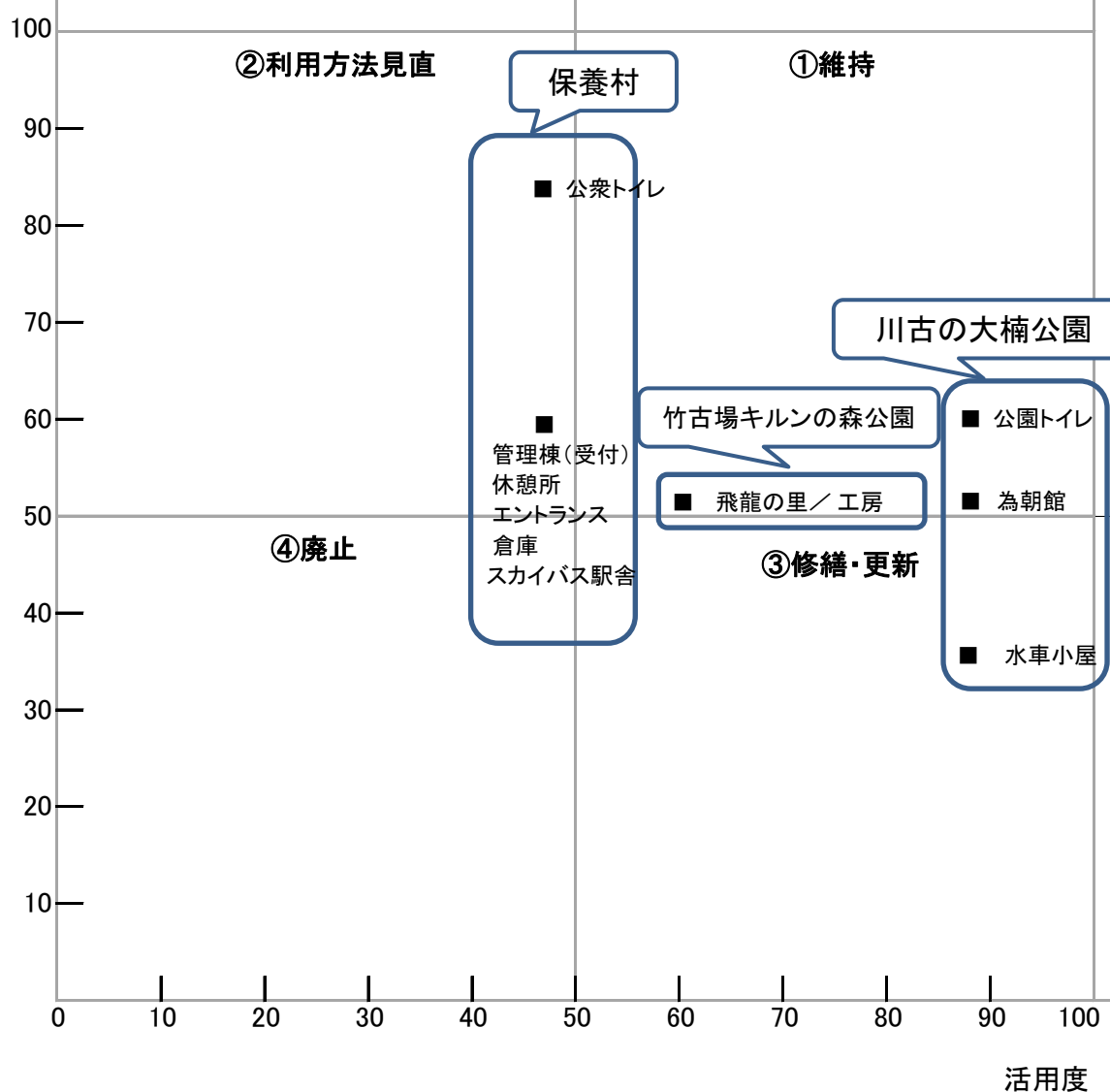
		(A)		(D)				(C)	(E)	
点数	耐震基準への適合	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	1㎡当たりのコスト	避難所機能	性能評価 5項目平均点	類似施設状況	施設利用度	利用者一人当たりのコスト	活用度評価 3項目平均点
100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	対応	安い	重要		なし	多い	安い	
60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部対応	普通	利用できる		一部の機能あり	普通	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数を過ぎている)	未対応	高い	利用できない		あり	少ない	高い	

種類	施設名	概 要	構造	建設年度		経過 年数 2018	(A) 耐用年数		面 積 (㎡)	(B) 経 費 (円)		(C) 利 用 者 (人)		(D) 1㎡あたり コスト (円)		(E) 1人あたり コスト (円)		性 能						活 用			
				西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数		H30	平均	H30	平均	H30	平均	H30	平均										
観 光 施 設	観光交流センター	交流センター	S1	2009	H21	9	38	29	435	3,406,951	—	650,000	—	4,629	—	5	—	100	100	100	—	20	80	—	—	—	—
		公衆トイレ	S1	2007	H19	11	31	20	301									100	100	100		20	80				
	保 養 村	管 理 棟 (受付)	S1	1994	H6	24	38	14	11	925,434		18,479		1,422		50		100	60	20	100	20	60	100	20	20	47
		休 憩 所	W1	1994	H6	24	24	0	144									100	60	20		20	60				
		エントランス	S1	1997	H9	21	38	17	331									100	60	20		20	60				
		倉 庫	CB1	1993	H5	25	34	9	15									100	60	20		20	60				
		スカイバス駅舎	S1	1993	H5	25	38	13	114									100	60	20		20	60				
		公衆トイレ	W1	2015	H27	3	24	21	36									100	100	100		20	84				
		川古の大楠公園	為 朝 館	W1	1994	H6	24	24	0									99	1,174,583	1,189,335		52,640	34,166				
	水車小屋		W1	1994	H6	24	15	▲ 9	35	100	20	20	20	36													
	公園トイレ		RC1	1994	H6	24	38	14	47	100	60	100	20	60													
	竹古場キルンの森公園	飛 龍 窯	S 煉瓦	1996	H8	22	—	—	365	1,467,989		31,380		2,265		47		—	—	—	100	—	—	100	60	20	60
		向 窯	W 煉瓦	1996	H8	22	—	—	52									—	—	—		—	—				
		工 房	W1	1996	H8	22	24	2	185									100	20	20		20	52				
		飛龍の里	W1	2002	H14	16	24	8	46									100	20	20		20	52				

※飛龍窯及び向窯については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令に定めがないため、耐用年数を記載していない。

評価分布
性能度

観光施設



施設名	現況	環境に関する情報
観光交流センター	交流センターは平成21年建設で耐震構造。 公共トイレは平成19年建設で耐震構造。	駅の年間利用者は65万人程度。 ・交流センター南側 たけナビ(観光案内人)を配置し手荷物の一時預かりや観光案内等を行っている。 ・交流センター北側 観光案内所及び飲食提供所として使用されている。 ・公共トイレ 新幹線駅舎建設に伴って、現在、南側出入口は封鎖中。駅構内からと西側から使用可。
保養村	管理棟(受付)、休憩所、エントランス、倉庫及びスカイバス駅舎は、平成5年から平成9年にかけて建設で耐震構造。 公共トイレは平成27年建設で耐震構造。	管理棟(受付)は、観光ボート乗り場の受付及び待機場所として利用している。保養村の年間利用者は1万8千人程度。
川古の大楠公園	平成6年建設で耐震構造。	国の天然記念物に指定されている大楠があり、年間来園者は5万3千人程度。市外からの来客も多い。
竹古場キルンの森公園	工房は平成8年建設で耐震構造。 飛龍の里は平成14年建設で耐震構造。 バリアフリー非対応。	年間来園者数は3万1千人程度。

観光施設の方向性について（対策内容と実施時期）

観光施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名	概要	構造	面積 (㎡)	設置年	耐用 年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	経費 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度			基本方針	実施方針		
観 光 施 設	観光交流センター	交流センター	S1	435	2009	38	2047	26	21	650,000	3,407	長寿命化等	維持修繕	（全体として） 新幹線開業に伴い、新駅舎に新設される（仮称）観光交流施設との役割分担を整理し、それぞれに相乗効果があるような管理方法を行う必要がある。 ・交流センター南側 レンタサイクル（たけチャリ）置場も併用しており大人用19台、子ども用3台を設置している。観光案内施設として重要な施設のため、長期間使用できるよう適切な維持管理を行う。 ・交流センター北側 飲食の提供等行い武雄市のPRも兼ね備えている施設である。長期間使用できるよう適切な維持管理を行う。	次期計画以降
		公衆トイレ	S1	301	2007	31	2038	17	12			長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	保養村	管理棟（受付）	S1	11	1994	38	2032	11	6	18,479	925	長寿命化等	維持修繕	観光ポート場は、武雄市の観光施設の一つである。今後も適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		休憩所	W1	144	1994	24	2018	▲ 3	▲ 8					適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		エントランス	S1	331	1997	38	2035	14	9			長寿命化等	維持修繕	今後の活用については、保養村協力会や保養村会等と協議をしながら検討していく。小構倉庫等に保管している商工観光関係物品の保管倉庫として活用していく。	次期計画以降
		倉庫	CB1	15	1993	34	2027	6	1			長寿命化等	維持修繕	特に目立った損傷もなく、物置小屋として利用している。今後も適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		スカイバス駅舎	S1	114	1993	38	2031	10	5			長寿命化等	維持修繕	今後の活用については、保養村協力会や保養村会等と協議をしながら検討していく。空きスペースは各種イベント用品等の倉庫として活用していく。	次期計画以降
		公衆トイレ	W1	36	2015	24	2039	18	13			長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	川古の大楠公園	為朝館	W1	99	1994	24	2018	▲ 3	▲ 8	52,640	1,175	長寿命化等	維持修繕	施設内のからくり人形も設置から20年以上経過しており、今後、維持・修繕費用が発生すると思われる。費用対効果等も考慮しながら、地元と協議し適切な維持管理、活用を行う。	次期計画以降
		水車小屋	W1	35	1994	15	2009	▲ 12	▲ 17			長寿命化等	維持修繕	老朽化に伴い平成28年度に水車の取替工事を行っている。水車米は若木の特産品としても位置付けられており、今後も適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		公園トイレ	RC1	47	1994	38	2032	11	6			長寿命化等	維持修繕	公衆トイレとしての利用も多いので、今後も適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	竹古場キルンの森公園	飛龍窯	S 煉瓦	365	1996	—	—	—	—	31,380	1,468	長寿命化等	維持修繕	焼物の焼成用の窯としては利用できないが、陶芸のまち武雄を象徴する建造物として案内イベント活用を行っている。今後も利用していく予定である。しかし、今後、窯自体のひび割れ等が進行すれば案内利用を検討する必要がある。以上を踏まえながら適切な維持管理を行っていく。	次期計画以降
		向窯	W 煉瓦	52	1996	—	—	—	—			長寿命化等	維持修繕	作品を盛り窯で焼成できる施設として、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		工房	W1	185	1996	24	2020	▲ 1	▲ 6			長寿命化等	維持修繕	陶芸体験を行える施設である。ロクロ、絵付け、素焼き等、完成までの体験ができるため、初心者から愛好家まで利用されている。適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		飛龍の里	W1	46	2002	24	2026	5	0			長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降

5 産業系施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

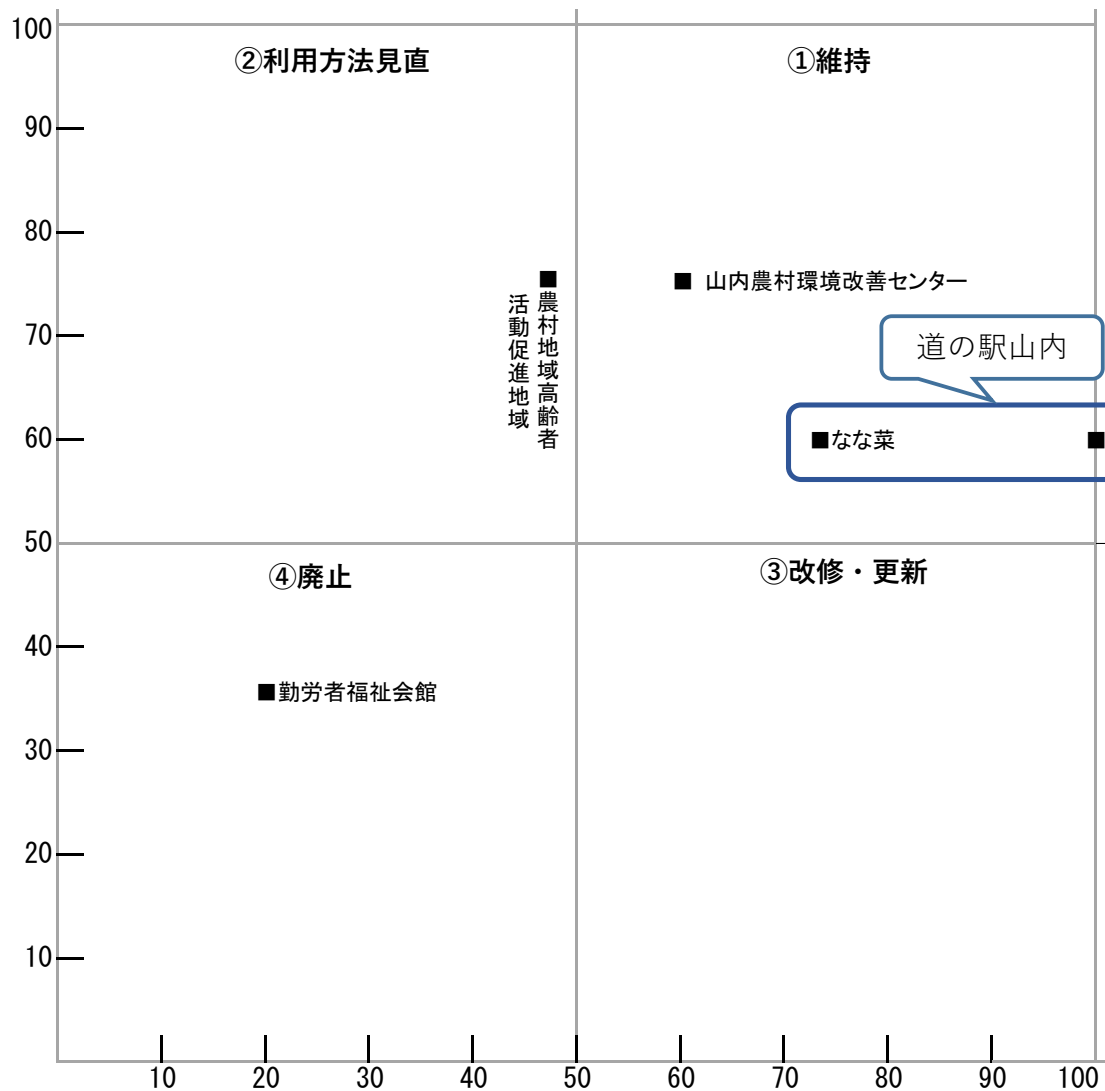
		Ⓐ		Ⓓ				Ⓒ	Ⓔ	
点数	耐震基準への適合	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	1㎡当たりのコスト	避難所機能	性能評価 5項目平均点	類似施設状況	施設利用度	利用者一人当たりのコスト	活用度評価 3項目平均点
100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	対応	安い	重要		なし	多い	安い	
60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部対応	普通	利用できる		一部の機能あり	普通	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数を過ぎている)	未対応	高い	利用できない		あり	少ない	高い	

					(A)		面 積 (㎡)	(B)		(C)		(D)		(E)														
種類	施設名	構造	建設年度		経過 年数 2018	耐用年数		経 費(円)		利 用 者 数(人)		1㎡あたり コスト(円)		1人あたり コスト(円)														
			西暦	和暦		耐用 年数		耐用 残年数	H30	平均	H30	平均	H30	平均	H30	平均	H30	平均	性 能							活 用		
産業系施設	勤労者福祉会館	RC2	1973	S48	45	50	5	825	1,721,732	2,616,324	3,873	64,391	2,088	4,105	445	142		20	20	20	100	20	36	20	20	20	20	
	山内農村環境改善センター	RC1	1986	S61	32	50	18	1,281	4,420,413		21,081		3,451		210			100	60	100	60	60	76	60	60	60	60	
	農村地域高齢者活動促進施設	W1	1996	H8	22	24	2	101	0		500		0		0			100	60	60	100	60	76	20	20	100	47	47
	道の駅山内	黒髪 の 里	RC1	1997	H9	21	39	18	314		4,323,150		254,248		7,492		9		100	60	100	20	20	60	100	100	100	100
		なな 菜	W1	2004	H16	14	20	6	263				42,254		7,492		47		100	60	100	20	20	60	100	60	60	73

評価分布

産業系施設

性能度



活度度

施設名	現況	環境に関する情報
勤労者福祉会館	昭和48年建設で、非耐震。 玄関にスロープはあるがトイレは車椅子対応となっていない。 トイレの扉が外れるなど痛みが激しく、空調の具合も悪い。	各団体の会議室としての利用が主で、減少傾向である。 H18(7,137人)→H28(3,705人)と10年前の約半数となっている。
山内農村環境改善センター	昭和61年建設で耐震構造。 玄関スロープ有。身障者トイレ有。 多目的ホールは舞台を備え、可動椅子の利用も可能である。	年間利用者は毎年2万人程度である。多目的ホールは、講演会やスポーツ等、幅広く利用され、年間1万人を超える利用がある。
農村地域高齢者活動促進施設	平成8年建設で耐震構造。 スロープはなく手摺のみ設置されている。	利用者は地元区であり、集会等に利用されている。
道の駅山内	平成9年建設で耐震構造。 みんなのトイレ有。	情報発信・休憩施設としての機能を果たしている。また、地元の新鮮な野菜等の販売を行っている。特産品販売所や地産地消のバイキングレストランに、年間を通して地元の方々を含め多くの来客者で賑わっている。

産業系施設の方向性について（対策内容と実施時期）

産業系施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名		構造	面積 (㎡)	設置年	耐用年 数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	年間 収入 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度				基本方針	実施方針		
産業系施設	勤労者福祉会館		RC2	825	1973	50	2023	2	▲ 3	3,873	1,722	1,194	施設量最適化	統廃合 (複合化)	老朽化に伴い、除去処分を行う。 会議室としての利用が主なため、機能を文化会館エリアに 集約し、施設の統廃合（複合化）を図る。	前 期
	山内農村環境改善センター		RC1	1,281	1986	50	2036	15	10	21,081	4,420	1,009	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。 山内公民館と機能面において一体的利用の側面があり山内 公民館と同時に方向性を検討していく必要がある。	次期計画以降
	農村地域高齢者活動促進施設		W1	101	1996	24	2020	▲ 1	▲ 6	500	0	0	施設量最適化	利用方法見直し (民営化)	地元自治区への移譲を検討する。	前 期
	道の駅山内	黒髪の里	RC1	314	1997	39	2036	15	10	254,248	4,323	224,938	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		なな菜	W1	263	2004	20	2024	3	▲ 2	42,254		53,681				

産業系施設（競輪場）の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

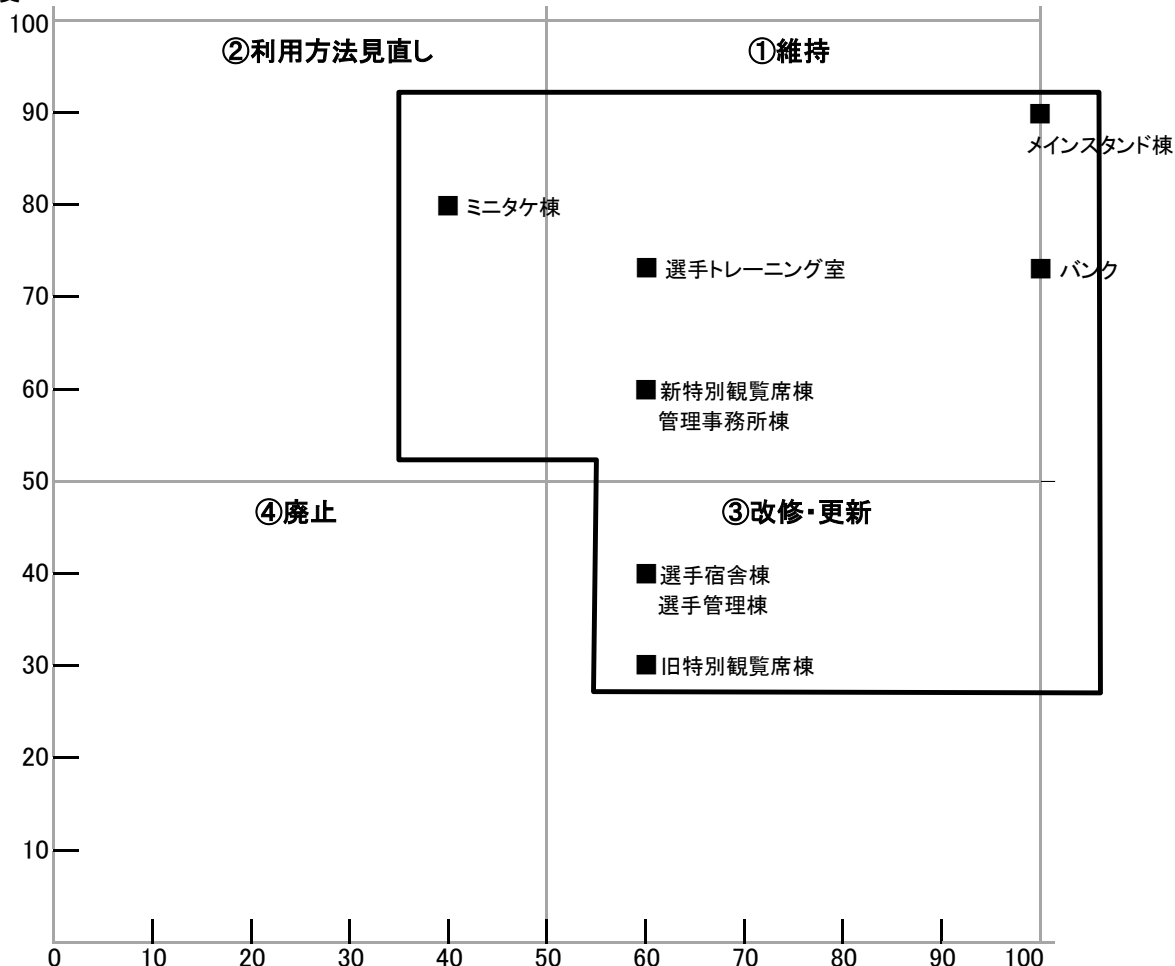
							(A)	面 積 (㎡)	(B)	(C)		(D)													
種類	区分	施設名	構造	建設年度		経過 年数	耐用年数		経費 (円)	利用者数 (人)		1人あたりコスト (円)		性 能				活用度							
				西暦	和暦		耐用年数			耐用残 年数	H30	H30	平均	H30	平均										
競 輪 場	発売	メインスタンド棟	S3	2016	H28	2	34	32	2,553	44,799,235	147,085	21,337	305	14,196		100	100	100	60	90	100	100	100		
		ミニタケ棟	S1	1996	H8	22	34	12	412		3,000		14,933			100	60	100	60	80	20	60	40		
		旧特別観覧席棟	SRC3	1972	S47	46	39	▲ 7	2,379		5,050		8,871			20	20	20	60	30	60	60	60		
		新特別観覧席棟	SRC3	1993	H5	25	39	14	1,723				100		60	20	60	60	60	60	60	60			
	選手 管理	選手宿舍棟	RC2	1980	S55	38	47	9	1,914		1,500		29,866		14,196		20	60	20	60	40	100	20	60	
		選手管理棟	RC2	1971	S46	47	50	3	1,038		2,000		22,400			20	60	20	60	40	100	20	60		
		選手トレーニング室	S1	1989	H元	29	34	5	195		1,500		29,866			100	60	－	60	73	100	20	60		
	事務	管理事務所棟	S2	1996	H8	22	38	16	683		7,564		5,923			100	60	20	60	60	60	60	60		
	競技	バンク	－	2015	H27	3	15	12	6,193		4,219,009		3,000			1,406		100	100	－	20	73	100	100	100

点数	耐震基準 への適合 (屋外)健全度	老朽化 の状況	バリアフ リーへの 対応	避難所 機能	性能 評価 4項目 平均点	競輪事業実施 における重要 度	利用者一人 当たりのコ スト	活用度 評価 2項目 平均点
100	適合	問題なし(耐 用年数の期間 の1/2未満)	対応	重要		必須	安い	
60	対策中または対策 予定	対策が必要 (耐用年数の 期間内で1/2 以上)	一部対応	利用 できる		重要	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行 (耐用年数を 過ぎている)	未対応	利用で きない		必要	高い	

評価分布

競輪場施設

性能度



活用度

施設名	現況	環境に関する情報
メインスタンド棟	平成28年建設で耐震構造。 バリアフリー対応。	本場、場外及び場外ナイター(GⅢ以上)の競輪車券発売所として使用中。年間240日程度開催している。電話投票やインターネット投票の普及により、来場者は徐々に減少している。
ミニタケ棟	平成27年に場外発売用建屋として改築済。耐震構造。 バリアフリー対応。	場外ナイター競輪の車券発売時に使用している。(メインスタンドは経費削減の為、閉場)15時開場で年間90日程度開催している。
旧特別観覧席棟	昭和47年建設で非耐震。 外壁や床の劣化、冷暖房設備の故障など老朽化が進行している。耐用年数を超過しており、老朽化が著しい。 バリアフリー非対応。	1階:直前選手控室等を本場開催時に使用している。(年間90日程度) 2階:年1回の記念競輪時(例年4月の4日間)に一般客席として使用。 3階:使用していない。
新特別観覧席棟	平成5年建設で耐震構造。 外壁や床の劣化、冷暖房設備の故障など老朽化が進行している。バリアフリー非対応。	1階:医務室等を本場開催時に使用している。(年間90日程度) 2階:年1回の記念競輪時(例年4月の4日間)に一般客席として使用。 3階:一室を本場開催時の記者室として使用(年間50日程度)。また、一般客席については、年1回の記念競輪時に臨時記者室として使用。
選手宿舍棟	昭和55年建設で非耐震。 屋根や外壁が劣化して雨漏りが頻発しており、その都度補修している。バリアフリー非対応。	本場開催時の参加選手宿舍として使用している。年間100日程度開催し、開催時以外は使用していない。
選手管理棟	昭和46年建設で非耐震。 建設から40年以上が経過し、全体的に老朽化が進んでいる。バリアフリー非対応。	本場開催時の検車場、選手控室、JKAの選手管理事務所として使用。年間100日程度使用し開催時以外は使用していない。 1階の一部は、佐賀県選手会の事務所として通年使用している。
選手トレーニング室	平成元年建設で耐震構造。 外壁の汚れなど経年劣化はあるものの、大きな不具合はない。	佐賀県選手会の練習場所としてほぼ毎日使用。本場開催時の参加選手の練習場所として使用。
管理事務所棟	平成8年建設で耐震構造。 経年劣化はあるものの、現時点では施設管理上の大きな問題点はない。バリアフリー非対応。	競輪事業所の事務所として利用している。
バンク	平成28年に全面改修済。 部分的な補修は発見次第行っている。	本場開催時に使用。また、佐賀県選手会や高校生の練習で年間を通して使用している。

産業系施設（競輪場）の方向性について（対策内容と実施時期）

競輪場の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類		施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用年数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度 後期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度			基本方針	実施方針		
競 輪 場	発 売	メインスタンド棟	S3	2,553	2016	34	2050	29	24	147,085	44,799	長寿命化等 安全確保	維持修繕 更 新	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		ミニタケ棟	S1	412	1996	34	2030	9	4	3,000				発売日数が少ないため、今後の活用方法の検討を行い利用促進を図る。建物については、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		旧特別観覧席棟	SRC3	2,379	1972	39	2011	▲ 10	▲ 15	5,050				各施設の老朽化の状況や来場者数等の活用状況を勘案し、余剰施設の廃止など、施設全体のコンパクト化を検討する。 老朽化が著しい選手宿舍棟及び選手管理棟については、ガールズ競輪等の開催に対応する機能を備えつつ、コンパクトな施設の整備を検討する。	後期
		新特別観覧席棟	SRC3	1,723	1993	39	2032	11	6						
	選 手 管 理	選手宿舍棟	RC2	1,914	1980	47	2027	6	1	1,500				選手トレーニング室については、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。 管理事務所棟については、部分改修を計画的に行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		選手管理棟	RC2	1,038	1971	50	2021	0	▲ 5	2,000					
		選手トレーニング室	S1	195	1989	34	2023	2	▲ 3	1,500					
	事 務	管理事務所棟	S2	683	1996	38	2034	13	8	7,564					
	競 技	バンク	-	6,193	2015	15	2030	9	4	3,000				4,219	

6 保健・福祉施設の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

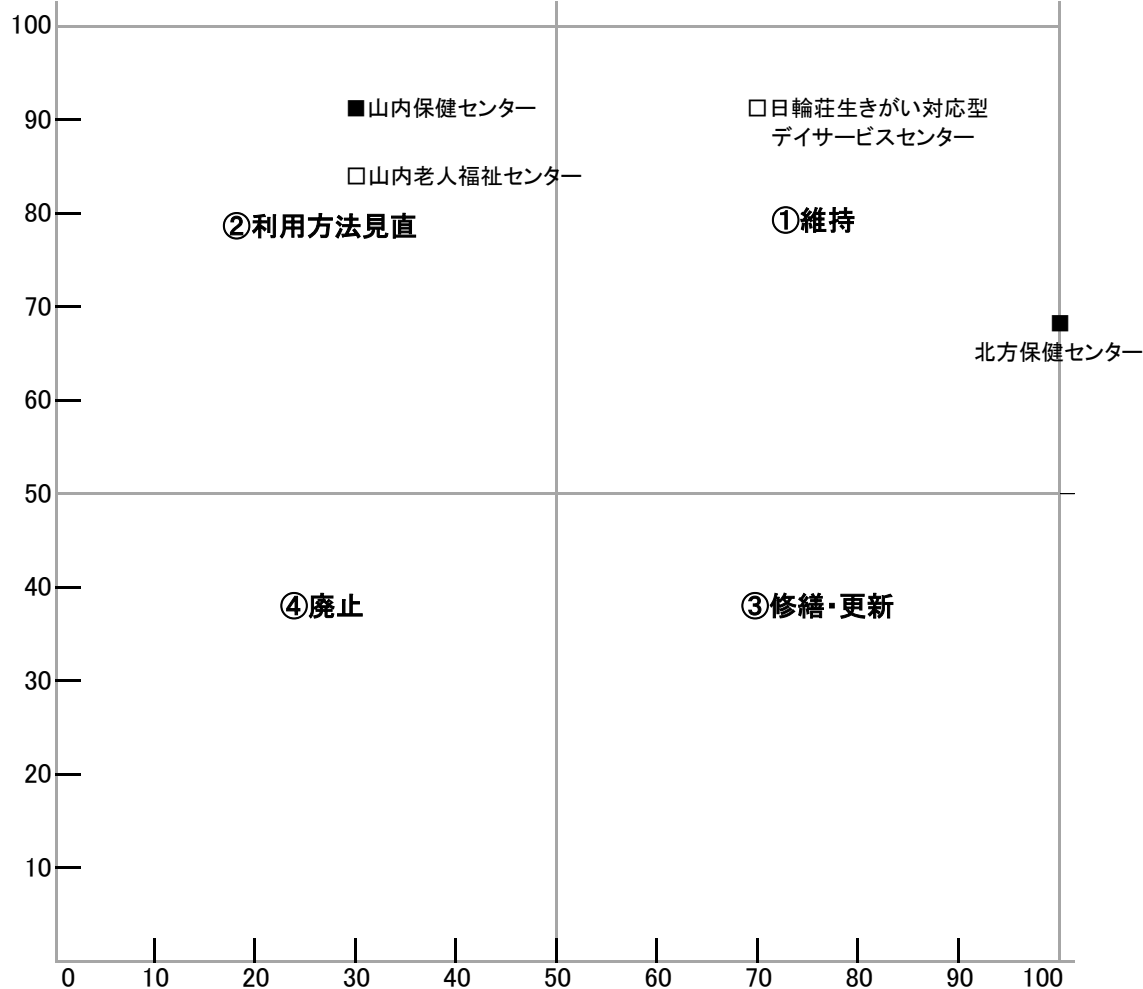
種類	施設名	構造	建設年度		経過 年数 2018	耐用年数		面 積 (㎡)	経 費 (円)		利用者数 (人)		1㎡あたり コスト (円)		1人あたり コスト (円)		性 能										活 用				
			西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数		H30	平均	H30	平均	H30	平均	H30	平均															
保健 施設	山内保健センター	RC1	1994	H6	24	50	26	774	2,449,443	3,045,855	14,920	31,080	3,165	4,060	164	121		100	100	60	100	100	92	20	20	20	60	30			
	北方保健センター	RC2	1991	H3	27	50	23	735	3,642,266		47,239		4,955		77			100	60	60	20	100	68	100	100	100	100				
福祉 施設	山内老人福祉センター	RC2	1995	H7	23	50	27	506	7,874,708	4,466,789	5,147	4,604	15,563	12,684	1,530	895		100	100	100	20	100	84	20	20	20	60	30			
	日輪荘生きがい対応型 デイサービスセンター	S1	1999	H11	19	38	19	108	1,058,869		4,061		9,804		261			100	60	100	100	100	92	20	100	100	60	70			

点数	耐震基準 への適合	(A) 老朽化の状況	バリアフ リーへの 対応	(D) 1㎡当 たりの コスト	避難所 機能	性能 評価 5項目 平均点	類似施設 状況	(C) 施設利用度	(E) 利用者一 人当たり のコスト	(F) 複合利用	活用度 評価 4項目 平均点
	100	適合	問題なし(耐用 年数の期間の 1/2未満)	対応	安い		なし	多い	安い	有	
	60	対策中ま たは対策 予定	対策が必要(耐 用年数の期間内 で1/2以上)	一部対応	普通		一部の機 能あり	普通	普通	無	
	20	対策が 必要	老朽化が進行 (耐用年数を過 ぎている)	未対応	高い		あり	少ない	高い	一	

評価分布

保健・福祉施設

性能度



※ ■: 保健施設、□: 福祉施設

活用度

種類	施設名	現況	環境に関する情報
保健施設	山内保健センター	平成6年建設で耐震構造。調理室の冷暖房が故障している。内壁の壁紙の剥がれが各所に見られる。	市事業の各種健康診査、相談事業等を実施するための重要な施設であるが、開館日数が130日程度とあまり多くない。施設の有効な活用を行うことが課題となっている。指定避難所(2次避難所)である。
	北方保健センター	平成3年建設で耐震構造。男性トイレのセンサーが故障している。水洗トイレタンクの水の貯まり具合が悪い。診察室の空調(暖房)の不具合が見られる。	健康診査、相談事業等の市事業を行っている。平成20年から子育て総合支援センターが併設されており、親子づれ等多数の利用があり、複合的活用により稼働率も高い。指定避難所(2次避難所)である。
福祉施設	山内老人福祉センター	平成7年建設で耐震構造。給湯器、空調設備等の故障がみられるが、修繕等を行い対応を行っている。	デイサービスを行っており、開館時は毎日利用されている。介護予防を目的として健康チェックやレクリエーション、趣味活動に取り組んでいる。送迎のバスも運行しているが、年間利用者数は4,600人程度であり、1日平均19人ほどとあまり多くない。福祉避難所の指定あり。
	日輪荘生きがい対応型デイサービスセンター	平成11年建設で耐震構造。建設から20年を経過し、事務室エアコン等設備の故障等が目立つ。	介護予防を目的として健康チェックやレクリエーション、趣味活動に取り組んでいる。生きがい対応型デイサービスの利用者は毎年増加傾向にある。

保健・福祉施設の方向性について（対策内容と実施時期）

保健・福祉施設の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用年 数	更新期	残年数		年間 利用者 (人)	年間 維持費 (千円)	収入 (円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
							R3年度	R8年度				基本方針	実施方針		
保 健 施 設	山内保健センター	RC1	774	1994	50	2044	23	18	14,920	2,449	0	長寿命化等	維持修繕	検診業務など定期的な利用があり必要性はあるが、利用されていない期間も多いため、様々な利用方法の検討を行い利活用を積極的に促進したうえで、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	北方保健センター	RC2	735	1991	50	2041	20	15	47,239	3,642	0	長寿命化等	維持修繕	効率的な施設の運営管理及び活用が行われている。今後も適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
福 祉 施 設	山内老人福祉センター	RC2	506	1995	50	2045	24	19	5,147	7,875	344,500	長寿命化等	維持修繕	稼働率が高いが利用者数があまり多くないため、様々な利用方法の検討を行い利活用を積極的に促進したうえで、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	日輪荘生きがい対応型 デイサービスセンター	S1	108	1999	38	2037	16	11	4,061	1,059	3,045,750	施設量 最適化	民営化	現状のまま管理利用することも可能であるが、長寿園などすでに民間移譲を行っている同様の施設もあり、民間活力を利用することが可能な施設である。よって施設の民営化を行い市の保有施設量の削減を行う。	後期

7 (1) 行政施設（環境・衛生）の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

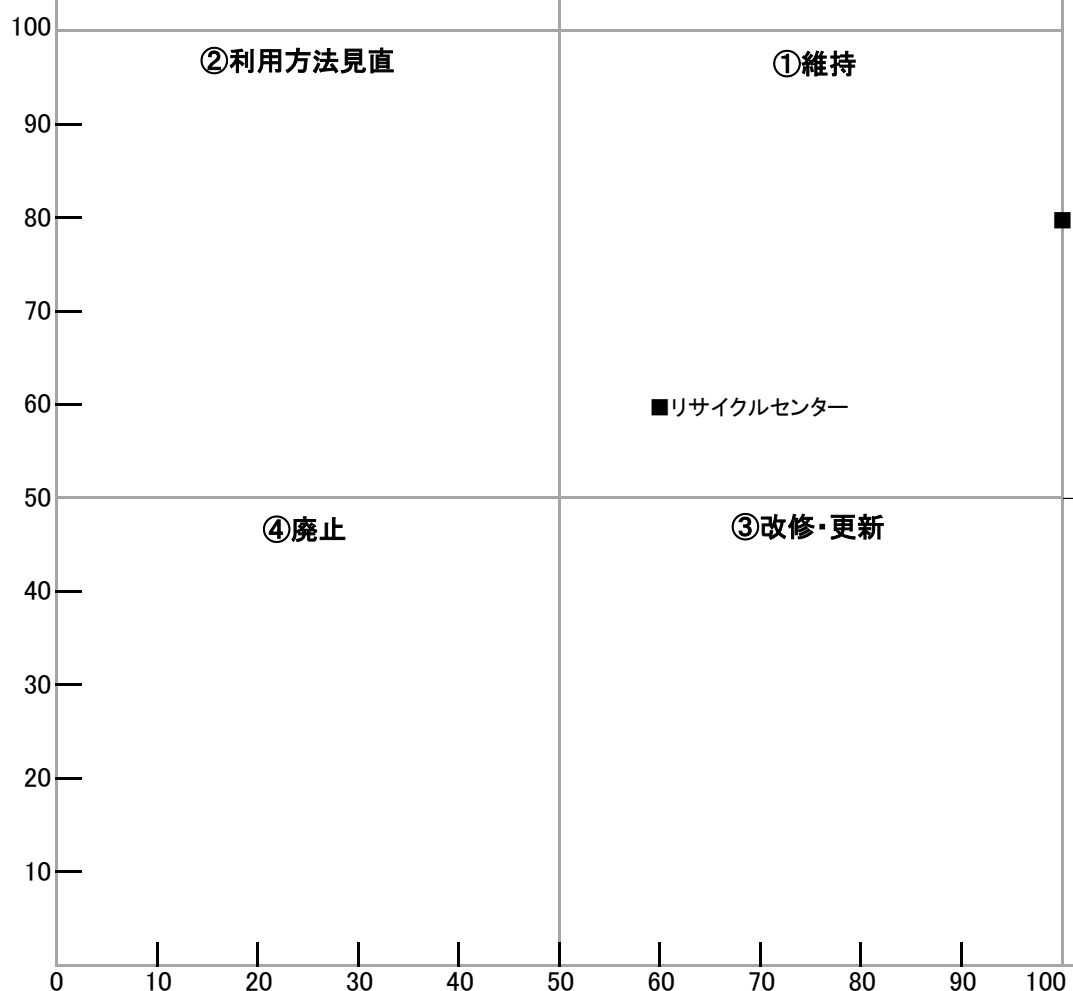
		㊦					㊧	
点数	耐震基準への適合	老朽化の状況	設備改修の必要度	災害対応機能	性能評価 4項目平均点	公共性	稼働状況	活用度評価 2項目平均点
100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	不要	重要		公共的	高い	
60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部必要	普通		やや公共的	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数を過ぎている)	必要			市場的	低い	

種類	施設名	構造	建設年度		経過 年数 2018	①		面 積 (㎡)	経 費 (円)	② 搬入量	性 能						活 用		
						耐用年数													
			西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数	H30	H30										
行政施設 （環境・衛生）	衛生処理センター	RC	2000	H12	18	38	20	3,596	95,909,000	38,262 (k l)		100	100	20	100	80	100	100	100
	リサイクルセンター	S	2000	H12	18	31	13	837	7,361,469	535 (t)		100	60	20	60	60	20	100	60

評価分布

行政施設(環境・衛生)

性能度



活用度

施設名	現況	環境に関する情報
衛生処理センター	平成12年建設で耐震構造。 3年に1度の精密機能検査を実施(直近は平成29年)し、建物及び機械設備の点検を行っている。 機械設備については、運転管理を委託している業者による日常点検と、機械メーカー推奨のサイクルでのオーバーホール等のメンテナンスを行っている。 平成22年度に外壁、内壁、床面のクラックは補修を行っている。	年間搬入量は毎年3万8千㎥程度である。人口減少により、生し尿は減少傾向であるが、生活雑排等の浄化汚泥が増加しており、全体搬入量の変化は少ない。 令和4年度から北方町の生し尿・汚泥等も当処理センターで行う必要があり処理能力の向上が必要である。
リサイクルセンター	平成12年建設で耐震構造。 施設・作業機器の老朽化に伴い処理速度が低下している。また、設備の修繕が多く維持管理費が増加傾向にある。	搬入は、びん・かん類、PETボトルがあり、毎年550トン程度行われている。

行政施設（環境・衛生）の方向性について（対策内容と実施時期）

行政施設（環境・衛生）の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名	構造	面積 (㎡)	建設年 度	耐用 年数	更新期	残年数		年間 維持費 (千円)	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
							R3年度	R8年度		基本方針	実施方針		
行政施設 (環境・衛生)	衛生処理センター	RC	3,596	2000	38	2038	17	12	95,909	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	リサイクルセンター	S	837	2000	31	2031	10	5	7,361	施設量 最適化	民営化	市場性があるため、民営化の検討を行う。	後期

7 (2) 行政施設（庁舎類）の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

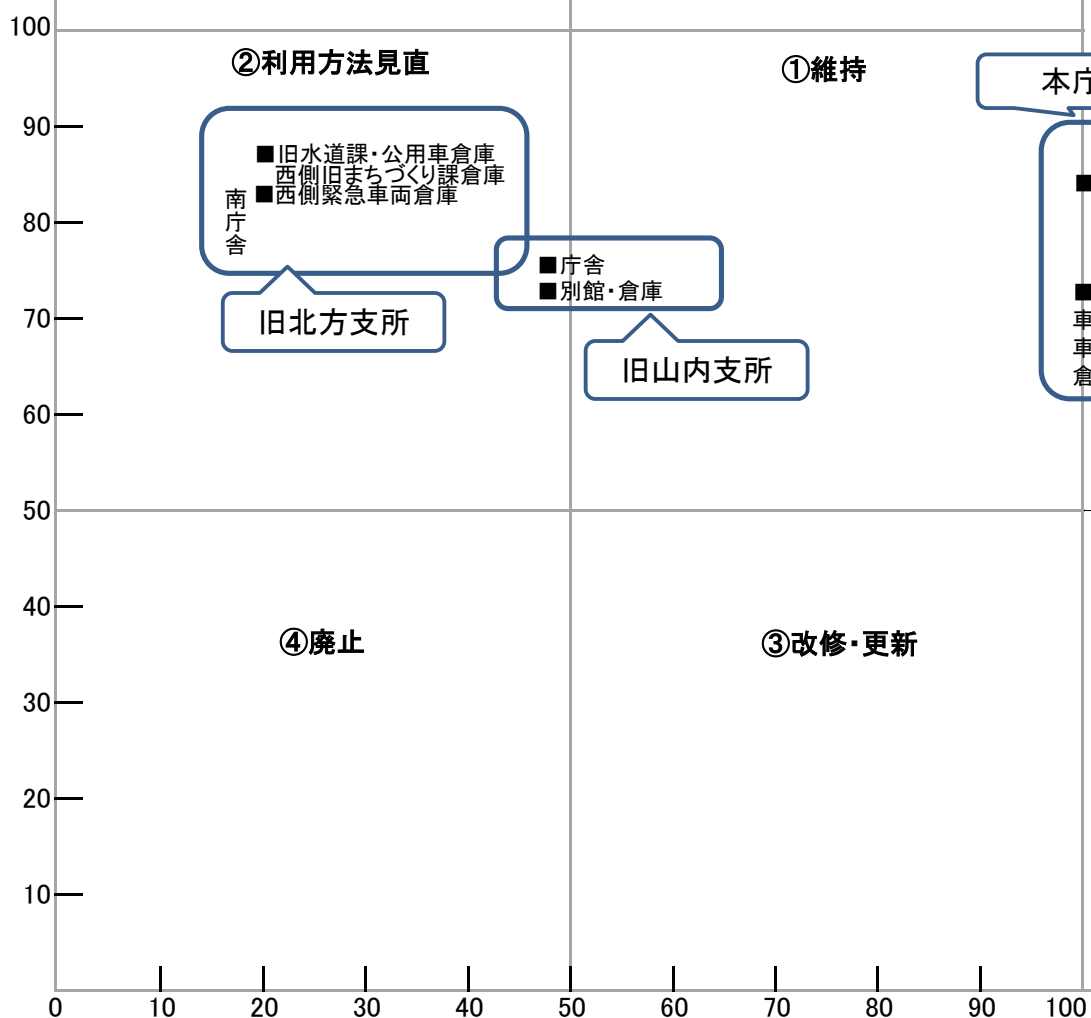
種類	施設名		構造	建設年度		経過 年数 2018	(A)		面 積 (㎡)	(B)		(C)		(D)		(E)												
							耐用 年数	耐用残 年数		経 費 (円)		利用者数 (人)		1㎡あたり コスト (円)		1人あたり コスト (円)		性 能					活 用					
										H30 (H29)	平均	H30 (H29)	平均	H30	平均	H30	平均										H30	平均
行政施設 (庁舎類)	本庁舎	庁舎	RC6	2018	H30	0	50	50	8,645	47,797,280	26,834,828	472,240	208,035	4,877	4,251	101	452		100	100	100	20	100	84	100	100	100	100
		車庫倉庫北棟	RC2・S2	2018	H30	0	50	50	758										100	100	－		－	73				
		車庫東棟	S1	2018	H30	0	31	31	277										100	100	－		－	73				
		倉庫東棟	S1	2018	H30	0	31	31	120										100	100	－		－	73				
	旧本庁舎	庁舎	RC4	1966	S41	52	50	▲ 2	4,767	35,852,125		325,740		6,449		110			20	20	60	20	20	28	20	100	100	73
		車庫・倉庫棟	S1	1966	S41	52	38	▲ 14	674										20	20	－		－	13				
		倉庫棟	S1	1968	S43	50	38	▲ 12	119										20	20	－		－	13				
	旧山内支所	庁舎	RC3	1992	H4	26	50	24	3,487	14,163,958		24,888		3,429		569			60	100	100	60	60	76	60	20	60	47
		別館・倉庫	RC2	1992	H4	26	50	24	644										100	60	－		－	73				
	旧北方支所	南庁舎	RC3	1995	H7	23	50	27	2,165	9,525,951		9,272		2,250		1,027			100	100	60	100	60	84	20	20	20	20
		北庁舎	RC2	1970	S45	48	50	2	1,022										20	60	20		20	24				
		旧水道課・公用車倉庫	S2	1994	H6	24	31	7	911										100	60	－		－	53				
		西側旧まちづくり課倉庫	S1	1996	H8	22	31	9	40										100	60	－		－	53				
		西側緊急車両倉庫	S1	1998	H10	20	31	11	96										100	60	－		－	53				

点数	耐震基準への適合	老朽化の状況	バリアフリーへの対応	1㎡当たりのコスト	避難所機能	性能評価	類似施設状況	施設利用度	利用者一人当たりのコスト	活用度評価
100	適合	問題なし(耐用年数の期間の1/2未満)	対応	安い	重要	5項目平均点	なし	多い	安い	3項目平均点
60	対策中または対策予定	対策が必要(耐用年数の期間内で1/2以上)	一部対応	普通	利用できる		一部の機能あり	普通	普通	
20	対策が必要	老朽化が進行(耐用年数を過ぎている)	未対応	高い	利用できない		あり	少ない	高い	

評価分布

行政施設(庁舎類)

性能度



活用度

施設名	現況	環境に関する情報
本庁舎	平成30年建設で耐震構造。	支所廃止及び税務署入居により職員数及び来庁者が増加している。また、テナント入居、市民交流スペースを充実したことにより利用者が増加している。
旧本庁舎	昭和41年建設で非耐震。	新庁舎建設により平成30年に除去処分を行った。
旧山内支所	平成4年建設で耐震構造。 外壁に若干の痛みが見受けられるが修繕を行うことで対処している。	市民サービスセンターを設置しており各種証明書の発行を行っている。空きスペースについては各種団体に貸付を行っている。
旧北方支所	南庁舎は平成7年建設で耐震構造。 北庁舎は昭和45年建設で非耐震。 旧水道課・公用車倉庫は平成6年建設で耐震構造。 西側旧まちづくり課倉庫は平成8年建設で耐震構造。 西側緊急車両倉庫は平成10年建設で耐震構造。	南庁舎は、新庁舎建設により支所を廃止したため、令和元年9月から杵藤地区広域市町村圏組合に貸付を行っている。 北庁舎は、老朽化により令和元年に除去処分を行った。 旧水道課・公用車倉庫、西側まちづくり課倉庫及び西側緊急車両倉庫は、各課の倉庫として利用している。

行政施設（庁舎類）の方向性

行政施設（庁舎類）の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名		構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残存数		方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・ 後期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度	基本方針	実施方針		
行政施設（庁舎類）	本庁舎	庁舎	RC6	8,645	2018	50	2068	47	42	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		車庫倉庫北棟	RC2・S2	758	2018	50	2068	47	42				
		車庫東棟	S1	277	2018	31	2049	28	23				
		倉庫東棟	S1	120	2018	31	2049	28	23				
	旧本庁舎	庁舎	RC4	4,767	1966	50	2016	▲ 5	▲ 10	安全確保	除去処分	新庁舎建設により除去処分を行った。	前期
		車庫・倉庫棟	S1	674	1966	38	2004	▲ 17	▲ 22				
		倉庫棟	S1	119	1968	38	2006	▲ 15	▲ 20				
	旧山内支所	庁舎	RC3	3,487	1992	50	2042	21	16	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
		別館・倉庫	RC2	644	1992	50	2042	21	16				
	旧北方支所	南庁舎	RC3	2,165	1995	50	2045	24	19	施設量最適化	利用方法見直し	令和元年9月から杵藤地区広域市町村圏組合に貸し付けを行っている。	前期
		北庁舎	RC2	1,022	1970	50	2020	▲ 1	▲ 6			昭和45年に建設され、耐震力不足及び老朽化により使用が困難であるため除去処分を行った。	
		旧水道課・公用車倉庫	S2	911	1994	31	2025	4	▲ 1			各課の倉庫として利用している。	
		西側旧まちづくり課倉庫	S1	40	1996	31	2027	6	1			適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	
		西側緊急車両倉庫	S1	96	1998	31	2029	8	3				

7（3）行政施設（普通財産類）の評価

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

2018 年基準

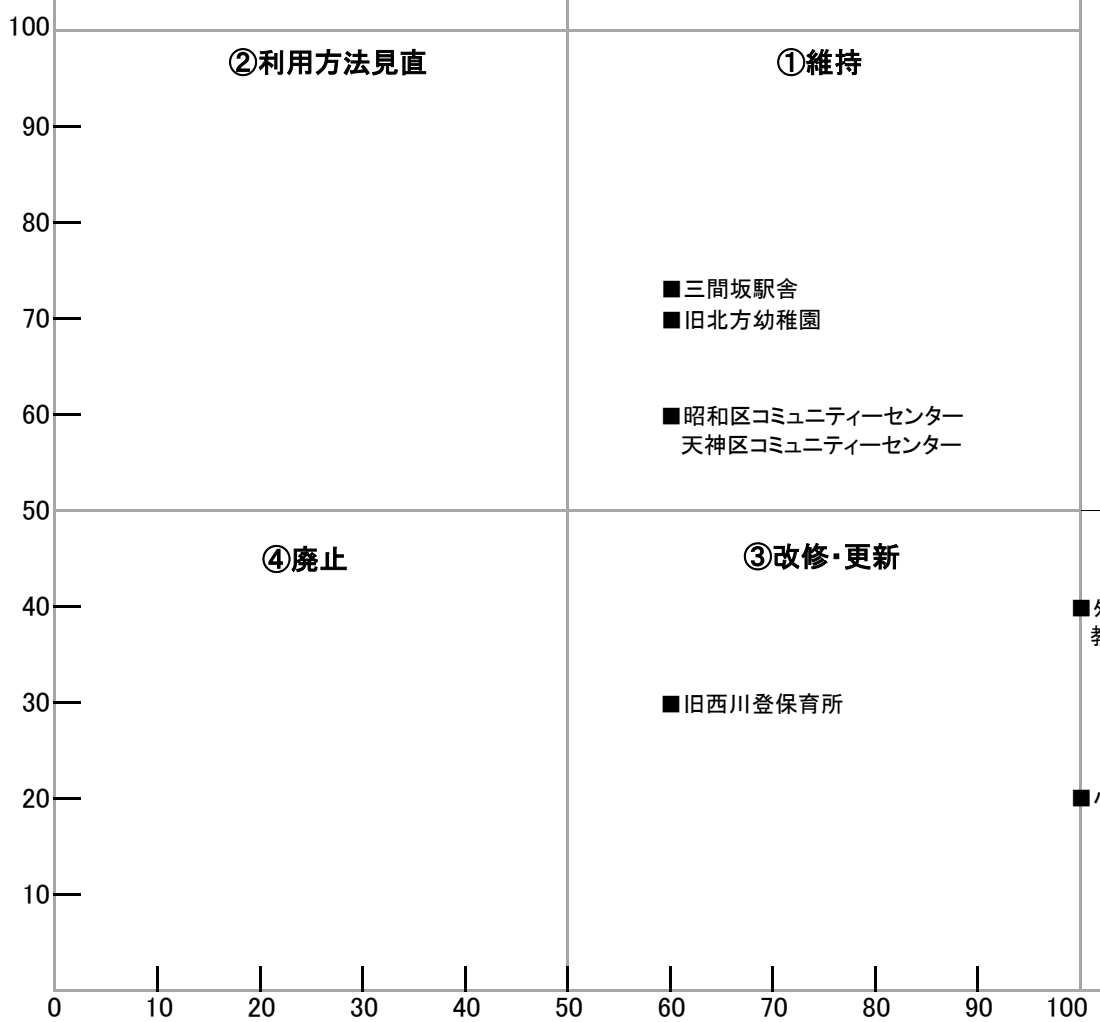
		①					
点数	耐震基準 への適合	老朽化 の状況	バリアフリ ーへの対応	避難所機能	性能 評価 4項目 平均点	利用状況	活用度 評価 1項目
100	適合	問題なし(耐 用年数の期間 の1/2未満)	対応	重要		市で利用	
60	対策中または 対策予定	対策が必要 (耐用年数の 期間内で1/2	一部対応	利用できる		公共的団体 等で利用	
20	対策が必要	老朽化が進行 (耐用年数を 過ぎている)	未対応	利用で きない		利用して いない	

種類	施設名	構造	建設年度		経過 年数 2018	① 耐用年数		面 積 (㎡)	② 経 費 (円)	③ 1㎡あたり コスト (円)	性 能					活 用		
			西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数		H30	H30								
行政施設 (普通財産類)	旧北方幼稚園	RC1	1985	S60	33	47	14	726	545,503	751		100	60	60	60	70	60	60
	三間坂駅舎	W1	2004	H16	14	24	10	151	275,813	1,827		100	60	60	－	73	60	60
	小楠倉庫類	W1・2 S1	1947	S22	71	15	▲ 56	664	－	－		20	20	－	－	20	100	100
	昭和区コミュニティセンター	S1	1990	H2	28	34	6	111	－	－		100	60	20	60	60	60	60
	天神区コミュニティセンター	S1	1990	H2	28	34	6	111	－	－		100	60	20	60	60	60	60
	旧西川登保育所	W1	1968	S43	50	22	▲ 28	746	－	－		20	20	60	20	30	60	60
	外国人教師宿舎	W1	1990	H2	28	22	▲ 6	49	－	－		100	20	20	20	40	100	100

評価分布

行政施設(普通財産類)

性能度



活用度

施設名	現況	環境に関する情報
旧北方幼稚園	昭和60年建設で耐震構造。 現在のところ安全面に問題はない。	文化財倉庫として利用している。また、ボランティア団体の活動拠点としての利用されている。
三間坂駅舎	平成16年建設で耐震構造。 現在のところ安全面に問題はない。	JR三間坂駅として通勤、通学等多数の利用者がある。待合室にはボランティア団体も常駐され、地域の憩いの場としても利用されている。
小楠倉庫類	昭和22年建設で非耐震。 建設後70年以上が経過しており、建物の老朽化が激しい。	水防ポートや春祭りの神輿、観光課の立て看板等を保管する倉庫として利用している。
昭和区コミュニティセンター	平成2年建設で耐震構造。 現在のところ安全面に問題はない。	昭和区が維持管理を行い、自治公民館として利用している。
天神区コミュニティセンター	平成2年建設で耐震構造。 現在のところ安全面に問題はない。	天神区が維持管理を行い、自治公民館として利用している。
旧西川登保育所	昭和43年建設で非耐震。 雨漏り等はないが外壁にひび割れが見られる。	西川登地区社会福祉協議会に無償貸付を行っており、地域の方の送迎により高齢者の交流の場として利用されている。維持管理費用については社協が負担している。
外国人教師宿舎	平成2年建設で耐震構造。 内壁、床の修繕を行った。耐用年数を過ぎているが、修繕等を行うことで住居としての機能は備えている。	ALTの宿舎として利用している。

行政施設（普通財産類）の方向性（対策内容と実施時期）

行政施設（普通財産類）の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名	構造	面積 (㎡)	設置年	耐用 年数	更新期	残存数		方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
							R3年度	R8年度	基本方針	実施方針		
行政施設 (普通財産類)	旧北方幼稚園	RC1	726	1985	47	2032	11	6	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	三間坂駅舎	W1	151	2004	24	2028	7	2	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降
	小楠倉庫類	W1・2 S1	664	1947	15	1962	▲ 59	▲ 64	安全確保	除去処分	老朽化に伴い除去処分を行う。	前期
	昭和区コミュニティセンター	S1	111	1990	34	2024	3	▲ 2	施設量最適化	利用方法見直し (民営化)	地元自治区への移譲を検討する。	後期
	天神区コミュニティセンター	S1	111	1990	34	2024	3	▲ 2	施設量最適化	利用方法見直し (民営化)	地元自治区への移譲を検討する。	後期
	旧西川登保育所	W1	746	1968	22	1990	▲ 31	▲ 36	施設量最適化	利用方法見直し	公有財産としての必要性は低下しているため、今後の管理利用方法について、地元団体と協議を行う。	後期
	外国人教師宿舍	W1	49	1990	22	2012	▲ 9	▲ 14	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降

各施設の評価及び現況等は次のとおりとなった。

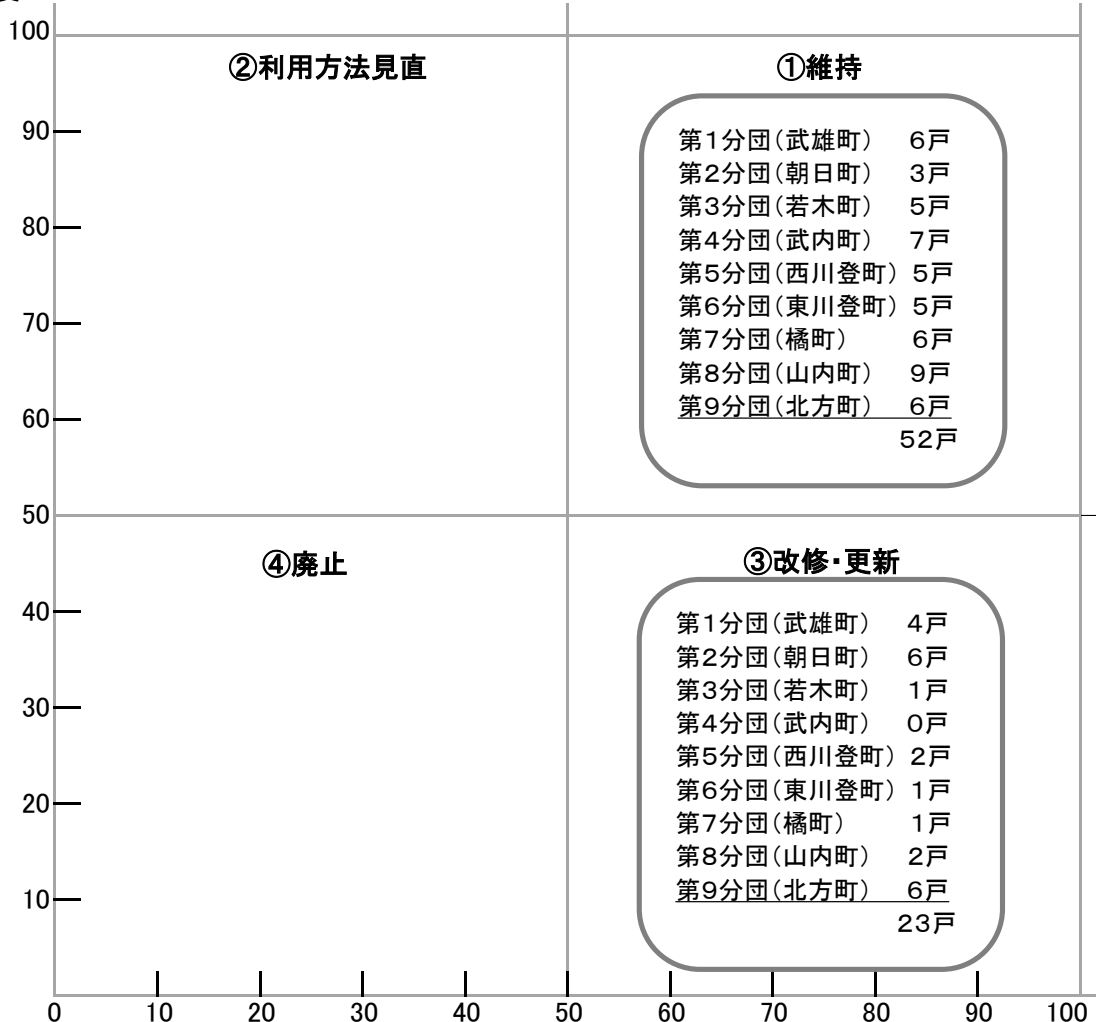
																施設状況①																					
種類	分団名	施設名	管轄地区	構造	結所機能		建設年度		経過 年数 2018	A		C	D	F	G		敷地及び地盤		建物外部					屋 根			建物内部		性 能				活 用				
					車庫のみ	結所	西暦	和暦		耐用年数	耐用残 年数	面積 (㎡)	団員数 (人)	点検活動 日数 (日)	火災発生 回数	H26～30			H30	平均	外壁、軒 天のひび 割れ	窓ガラス 等の破損	屋根瓦の ずれ破損	屋根部分 の破損	雨どい等 の破損	天井・窓 からの雨 漏り	天井・内 壁等にひ び割れや 破損	床、階段 に沈みや 破損									
									H26～30								H30	H30											H26～30	H30	平均	有	有	有	有	有	有
消防格納庫	第1分団（武雄町）	消防格納庫（第01分団本部）	武雄町内	W2	○	1977	S52	41	22	▲19	81	13	48	31	H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	20	20	60	33	60	100	100	86
		消防格納庫（第01分団第01部）	逢葉町、内町、桜町、永松、西浦、松原、中町、昭和	W1	○	1978	S53	40	22	▲18	50	24	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	20	20	100	46	100	100	100	100
		消防格納庫（第01分団第02部）	新町、本町、宮野町	W1	○	1978	S53	40	17	▲23	25	24	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	20	20	60	33	100	100	100	100
		消防格納庫（第01分団第03部）	下西山、竹下町	W1	○	1973	S48	45	17	▲28	25	17	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	20	20	100	46	60	100	100	86
		消防格納庫（第01分団第04部）	上西山	W1	○	2010	H22	8	22	14	44	15	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	60	100	86	60	100	100	86
		消防格納庫（第01分団第05部）	武雄	W1	○	2000	H12	18	22	4	70	16	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	20	100	73	60	100	100	86
		消防格納庫（第01分団第06部）	花島、永島、溝ノ上	W1	○	1984	S59	34	22	▲12	60	21	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	20	100	73	100	100	100	100
		消防格納庫（第01分団第07部）	小楠、天神	W1	○	2009	H21	9	22	13	44	15	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	60	100	86	60	100	60	73
		消防格納庫（第01分団第08部）	八並	LSG2	○	1987	S62	31	27	▲4	30	16	48		H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	20	100	73	60	100	100	86
	消防格納庫（第01分団第09部）	川良	W1	○	1993	H5	25	22	▲3	60	20	48	H26～30	H30	平均	地盤沈下	塀等の破損	基礎や土台の沈下や破損	外壁、軒天のひび割れ	外壁タイルのひび割れ	窓ガラス等の破損	屋根瓦のずれ破損	屋根部分の破損	雨どい等の破損	天井・窓からの雨漏り	天井・内壁等にひび割れや破損	床、階段に沈みや破損	100	20	100	73	100	100	60	86		
	第2分団（朝日町）	消防格納庫（第02分団本部）	朝日町内	W1	○	1965																															

[illegible]

評価分布

行政施設(消防格納庫)

性能度



活用度

分団名	現況	環境に関する情報
第1分団(武雄町)	消防団員数:181人 ポンプ車:2台 小型動力ポンプ積載車:7台 小型動力ポンプ:7台 団員1人当たり人口:91.3人 団員1人当たり世帯:37.4世帯	人 口 :16,532人 世帯数:6,786世帯 面 積 :1,936ha 可住地面積:606ha 第1分団が所管する武雄町は、市街地における大規模な火災が想定され、発生すれば迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 中央部には武雄川が流れ、雨期になれば河川の氾濫や浸水が発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近では高齢化社会となり、行方不明捜索も年々増加している状況である。
第2分団(朝日町)	消防団員数:113人 小型動力ポンプ積載車:9台 小型動力ポンプ:9台 団員1人当たり人口:54.0人 団員1人当たり世帯:20.2世帯	人 口 :6,108人 世帯数:2,285世帯 面 積 :1,198ha 可住地面積:436ha 第2分団が所管する朝日町は、中央部に高橋川が流れ、沿岸一帯は水田地帯となっているため、水害常襲地区を多く抱えている。 雨期になれば、河川の氾濫や洪水、その他の災害が頻繁に発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近では高齢化社会となり、行方不明捜索も年々増加している状況である。
第3分団(若木町)	消防団員数:120人 小型動力ポンプ積載車:6台 小型動力ポンプ:6台 団員1人当たり人口:13.4人 団員1人当たり世帯:4.5世帯	人 口 :1,608人 世帯数:546世帯 面 積 :2,225ha 可住地面積:498ha 第3分団が所管する若木町は、山間部における大規模な火災が想定され、発生すれば迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 特に、北部の山間部については、常備消防の到着に時間を要し、消防団の活動が重要となる。 最近では高齢化社会となり、行方不明捜索も年々増加している状況である。

分団名	現況	環境に関する情報
第4分団(武内町)	消防団員数:115人 小型動力ポンプ積載車:7台 小型動力ポンプ:7台 団員1人当たり人口:20.4人 団員1人当たり世帯:6.5世帯	人 口 :2,354人 世帯数:753世帯 面 積 :2,480ha 可住地面積:607ha 第4分団が所管する武内町は、山間部における大規模な火災が想定され、発生すれば迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 中央部には松浦川が流れ、雨期になれば河川の氾濫や浸水が発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。
第5分団(西川登町)	消防団員数:101人 小型動力ポンプ積載車:7台 小型動力ポンプ:6台 団員1人当たり人口:17.7人 団員1人当たり世帯:5.8世帯	人 口 :1,790人 世帯数:587世帯 面 積 :1,801ha 可住地面積:437ha 第5分団が所管する西川登町は、山間部における大規模な火災が想定され、発生すれば迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 雨期になれば、土砂崩れなどの災害が発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。
第6分団(東川登町)	消防団員数:100人 小型動力ポンプ積載車:6台 小型動力ポンプ:6台 団員1人当たり人口:21.5人 団員1人当たり世帯:7.5世帯	人 口 :2,154人 世帯数:759世帯 面 積 :1,721ha 可住地面積:544ha 第6分団が所管する東川登町は、山間部における大規模な火災が想定され、発生すれば迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 雨期になれば、主要道路である国道34号を含め冠水が発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。
第7分団(橘町)	消防団員数:108人 小型動力ポンプ積載車:7台 小型動力ポンプ:7台 団員1人当たり人口:23.7人 団員1人当たり世帯:7.9世帯	人 口 :2,561人 世帯数:861世帯 面 積 :1,367ha 可住地面積:521ha 第7分団が所管する橘町は、中央部に六角川が流れ、沿岸一帯は水田地帯となっているため、水害常襲地区を多く抱えている。 雨期になれば、河川の氾濫や洪水、その他の災害が頻繁に発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。
第8分団(山内町)	消防団員数:273人 小型動力ポンプ積載車:10台 小型動力ポンプ:10台 団員1人当たり人口:31.1人 団員1人当たり世帯:10.7世帯	人 口 :8,501人 世帯数:2,948世帯 面 積 :4,087ha 可住地面積:1,257ha 第8分団が所管する山内町は、山間部における大規模な火災が想定され、発生すれば、迅速かつ円滑な対応が必要となるため、消防団の活動が重要となる。 雨期になれば、土砂崩れなどの災害が発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。
第9分団(北方町)	消防団員数:273人 小型動力ポンプ積載車:12台 小型動力ポンプ:12台 団員1人当たり人口:26.8人 団員1人当たり世帯:10.3世帯	人 口 :7,318人 世帯数:2,833世帯 面 積 :2,725ha 可住地面積:606ha 第9分団が所管する北方町は、中央部に六角川が流れ、沿岸一帯は水田地帯となっているため、水害常襲地区を多く抱えている。 雨期になれば、河川の氾濫や洪水、その他の災害が頻繁に発生するため、水防団としての出動機会も多くなる。 最近が高齢化社会となり、行方不明搜索も年々増加している状況である。

※本団及び女性分団の団員数は、団員数に計上していない。

行政施設（消防格納庫）の方向性について（対策内容と実施時期）

行政施設（消防格納庫）の今後の方向性については、次のとおりとする。

種類		施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		団員数	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度		基本方針	実施方針		
消防格納庫	第1分団 (武雄町)	消防格納庫（第01分団本部）	W2	81	1977	22	1999	▲ 22	▲ 27	13	長寿命化等 安全確保	長寿命化 更 新	老朽化が進んでいる施設は、できる限りリフォーム等 を行い施設の維持に努める。リフォーム等を行うことが できない施設については更新を行う。また、施設数 については近隣施設との統廃合を検討するとともに地 域毎の団員数、部数の変動に合わせて整備を行う。	年間1件更新 及び リフォーム
		消防格納庫（第01分団第01部）	W1	50	1978	22	2000	▲ 21	▲ 26	24				
		消防格納庫（第01分団第02部）	W1	25	1978	17	1995	▲ 26	▲ 31	24				
		消防格納庫（第01分団第03部）	W1	25	1973	17	1990	▲ 31	▲ 36	17				
		消防格納庫（第01分団第04部）	W1	44	2010	22	2032	11	6	15				
		消防格納庫（第01分団第05部）	W1	70	2000	22	2022	1	▲ 4	16				
		消防格納庫（第01分団第06部）	W1	60	1984	22	2006	▲ 15	▲ 20	21				
		消防格納庫（第01分団第07部）	W1	44	2009	22	2031	10	5	15				
		消防格納庫（第01分団第08部）	LSG2	30	1987	27	2014	▲ 7	▲ 12	16				
		消防格納庫（第01分団第09部）	W1	60	1993	22	2015	▲ 6	▲ 11	20				
	第2分団 (朝日町)	消防格納庫（第02分団本部）	W1	35	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	12				
		消防格納庫（第02分団第01部）	W1	36	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	13				
		消防格納庫（第02分団第02部）	W1	35	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	13				
		消防格納庫（第02分団第03部）	W1	46	2014	22	2036	15	10	15				
		消防格納庫（第02分団第04部）	W1	40	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	13				
		消防格納庫（第02分団第05部）	W1	40	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	13				
		消防格納庫（第02分団第06部）	W1	40	1989	22	2011	▲ 10	▲ 15	11				
		消防格納庫（第02分団第07部）	W1	35	1965	22	1987	▲ 34	▲ 39	13				
		消防格納庫（第02分団第08部）	W1	50	1990	22	2012	▲ 9	▲ 14	10				
	第3分団 (若木町)	消防格納庫（第03分団本部・第01部）	W1	58	1978	22	2000	▲ 21	▲ 26	32				
		消防格納庫（第03分団第02部）	W1	33	1985	22	2007	▲ 14	▲ 19	18				
		消防格納庫（第03分団第03部）	W1	22	1982	22	2004	▲ 17	▲ 22	13				
		消防格納庫（第03分団第04部）	W1	50	1984	22	2006	▲ 15	▲ 20	15				
		消防格納庫（第03分団第05部）	W1	42	1985	22	2007	▲ 14	▲ 19	24				
		消防格納庫（第03分団第06部）	W1	35	1991	22	2013	▲ 8	▲ 13	18				

種類		施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		団員数	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度		基本方針	実施方針		
消 防 格 納 庫	第 4 分 団 (武内町)	消防格納庫 (第04分団第01部)	W1	50	1985	22	2007	▲ 14	▲ 19	17	長 寿 命 化 等 安 全 確 保	長 寿 命 化 更 新	老朽化が進んでいる施設は、できる限りリフォーム等 を行い施設の維持に努める。リフォーム等を行うこと ができない施設については更新を行う。また、施設数 については近隣施設との統廃合を検討するとともに地 域毎の団員数、部数の変動に合わせて整備を行う。	年 間 1 件 更 新 及 び リ フ ォ ー ム
		消防格納庫 (第04分団第02部)	W1	25	1984	22	2006	▲ 15	▲ 20	15				
		消防格納庫 (第04分団第03部)	W1	50	1984	22	2006	▲ 15	▲ 20	16				
		消防格納庫 (第04分団第04部)	W1	54	1997	22	2019	▲ 2	▲ 7	16				
		消防格納庫 (第04分団第05部)	W1	44	2008	22	2030	9	4	15				
		消防格納庫 (第04分団第06部)	W1	45	2017	22	2039	18	13	14				
		消防格納庫 (第04分団本部・第07部)	W1	42	1982	22	2004	▲ 17	▲ 22	22				
	第 5 分 団 (西川登町)	消防格納庫 (第05分団本部)	W1	50	1994	22	2016	▲ 5	▲ 10	10				
		消防格納庫 (第05分団第01部)	W1	40	1989	22	2011	▲ 10	▲ 15	13				
		消防格納庫 (第05分団第02部)	W1	50	1995	22	2017	▲ 4	▲ 9	16				
		消防格納庫 (第05分団第03部)	W1	30	1990	22	2012	▲ 9	▲ 14	16				
		消防格納庫 (第05分団第04部)	W1	25	1995	22	2017	▲ 4	▲ 9	16				
		消防格納庫 (第05分団第05部)	W1	40	1980	22	2002	▲ 19	▲ 24	16				
		消防格納庫 (第05分団第06部)	W1	30	1978	22	2000	▲ 21	▲ 26	14				
	第 6 分 団 (東川登町)	消防格納庫 (第06分団本部)	W1	42	1992	22	2014	▲ 7	▲ 12	15				
		消防格納庫 (第06分団第01部)	W1	46	1978	22	2000	▲ 21	▲ 26	20				
		消防格納庫 (第06分団第02部)	W1	50	1990	22	2012	▲ 9	▲ 14	18				
		消防格納庫 (第06分団第03部)	W1	35	2011	22	2033	12	7	22				
		消防格納庫 (第06分団第03部) 楠峰格納庫	W1	20	1984	17	2001	▲ 20	▲ 25	3				
		消防格納庫 (第06分団第04部)	W1	46	1991	22	2013	▲ 8	▲ 13	22				
	第 7 分 団 (橘町)	消防格納庫 (第07分団本部)	W2	35	1977	22	1999	▲ 22	▲ 27	6				
		消防格納庫 (第07分団第01部)	W1	41	2010	22	2032	11	6	17				
		消防格納庫 (第07分団第02部)	W1	29	1993	22	2015	▲ 6	▲ 11	19				
		消防格納庫 (第07分団第03部)	W1	51	1997	22	2019	▲ 2	▲ 7	19				
		消防格納庫 (第07分団第04部)	W1	47	1991	22	2013	▲ 8	▲ 13	15				
		消防格納庫 (第07分団第05部)	W1	55	1988	22	2010	▲ 11	▲ 16	17				
		消防格納庫 (第07分団第06部)	W2	22	2015	22	2037	16	11	15				

種類		施設名	構造	面積 (㎡)	建設 年度	耐用 年数	更新期	残年数		団員数	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～R3年度・後 期=R4～R8年度)
								R3年度	R8年度		基本方針	実施方針		
消 防 格 納 庫	第 8 分 団 (山内町)	消防格納庫（第08分団本部）	LSG1	113	1999	27	2026	5	0	27	長寿命化等 安全確保	長寿命化 更 新	老朽化が進んでいる施設は、できる限りリフォーム等 を行い施設の維持に努める。リフォーム等を行うこと ができない施設については更新を行う。また、施設数 については近隣施設との統廃合を検討するとともに地 域毎の団員数、部数の変動に合わせて整備を行う。	年間1件更新 及び リフォーム
		消防格納庫（第08分団第01部）	W1	46	1990	22	2012	▲ 9	▲ 14	26				
		消防格納庫（第08分団第02部）	W1	53	2004	22	2026	5	0	27				
		消防格納庫（第08分団第03部）	W1	47	2005	22	2027	6	1	25				
		消防格納庫（第08分団第04部）	W1	41	1994	22	2016	▲ 5	▲ 10	27				
		消防格納庫（第08分団第05部）	W1	53	2005	22	2027	6	1	24				
		消防格納庫（第08分団第06部）	W1	68	1980	22	2002	▲ 19	▲ 24	26				
		消防格納庫（第08分団第07部）	W1	92	2003	22	2025	4	▲ 1	26				
		消防格納庫（第08分団第08部）	W1	40	1992	22	2014	▲ 7	▲ 12	22				
		消防格納庫（第08分団第09部）	W1	41	1991	22	2013	▲ 8	▲ 13	22				
		消防格納庫（第08分団第10部）	W1	19	1981	22	2003	▲ 18	▲ 23	21				
	第 9 分 団 (北方町)	消防格納庫（第09分団第01部）	W1	58	1972	22	1994	▲ 27	▲ 32	24				
		消防格納庫（第09分団第02部）	W1	58	1970	22	1992	▲ 29	▲ 34	28				
		消防格納庫（第09分団第03部）	W1	50	1969	22	1991	▲ 30	▲ 35	25				
		消防格納庫（第09分団本部・第04部）	W1	46	2013	22	2035	14	9	62				
		消防格納庫（第09分団第05部）	W1	50	1987	22	2009	▲ 12	▲ 17	19				
		消防格納庫（第09分団第06部）	W1	24	1973	22	1995	▲ 26	▲ 31	3				
		消防格納庫（第09分団第07部）	W1	48	2016	22	2038	17	12	20				
		消防格納庫（第09分団第08部）	W1	44	2012	22	2034	13	8	20				
		消防格納庫（第09分団第09部）	W1	42	1993	22	2015	▲ 6	▲ 11	8				
		消防格納庫（第09分団第10部）	W1	50	2018	22	2040	19	14	22				
		消防格納庫（第09分団第11部）	W1	50	1975	22	1997	▲ 24	▲ 29	19				
		消防格納庫（第09分団第12部）	W1	50	1975	22	1997	▲ 24	▲ 29	23				

8 公園施設

公園施設については、設置からの経過年数や付帯施設及び防災機能の有無などについて確認を行い、現在の施設をどのように維持していくかを検討した。

2018 年基準

種類	施設名		構造	分類		建設年度		経過 年数 2018	耐用年数		面 積 (㎡)		年間使用水 量 (m3)	経 費 (円) H30	付帯施設			防災機能
						西暦	和暦		耐用 年数	耐用残 年数	建物	その他			建物	工作物	遊具	
公園施設	中央公園	公園	RC	都市公園	街区公園	2007	H19	11	40	29		3,517	—	293,000	有	有	無	無
		公衆トイレ				1995	H7	23	38	15	89		345	176,176				
	丸山公園			都市公園	近隣公園	1969	S44	49	40	▲ 9		19,040	—	958,360	有	有	有	無
	一の坪公園			都市公園	街区公園	1977	S52	41	40	▲ 1		1,735		136,154	無	有	有	有
	白岩運動公園	公園		都市公園	運動公園	1979	S54	39	40	1		190,402	—	4,487,336	有	有	無	有
		東公衆トイレ	W			2002	H14	16	15	▲ 1	17		68	528,528				
		西公衆トイレ	W			2012	H24	6	15	9	61		435					
		南公衆トイレ	RC			1979	S54	39	38	▲ 1	66							
		北公衆トイレ	W			2011	H23	7	15	8	45		663					
	天神崎公園	公園	RC	都市公園	近隣公園	1981	S56	37	40	3		10,832	—	592,420	有	有	有	無
		公衆トイレ				1981	S56	37	38	1	34		169	176,176				
	迎田緑地			都市公園	都市緑地	1980	S55	38	40	2		27,951	—	0	無	無	無	無
	菅町河畔公園			都市公園	都市緑地	1993	H5	25	40	15		903	—	105,276	無	有	無	無
	五反田公園			都市公園	街区公園	1994	H6	24	40	16		1,600	—	507,460	無	有	有	無
	野田公園	公園	RC	都市公園	街区公園	1994	H6	24	40	16		1,557	—	104,385	有	有	有	無
		公衆トイレ				1994	H6	24	38	14	6		6	44,044				
	黒尾町公園			都市公園	街区公園	1995	H7	23	40	17		2,501	—	205,752	無	有	有	無
	杉橋公園			都市公園	街区公園	1995	H7	23	40	17		1,978	—	112,671	無	有	有	無
	梶原公園			都市公園	街区公園	1995	H7	23	40	17		639	—	77,551	無	有	有	無
	山内中央公園	公園	RC	都市公園	地区公園	1989	H元	29	40	11		43,705	—	22,671,387	有	有	有	有
		展望台				1993	H5	25	38	13	54		—					
	きたがた四季の丘公園	公園		都市公園	地区公園	1996	H8	22	40	18		92,127	—	10,048,567	有	有	有	無
		管理棟	RC			1995	H7	23	50	27	117		—					
		資料館・展望台	RC			1995	H7	23	38	15	326		—					
		公衆トイレ	RC			1995	H7	23	38	15	31		196					
	武雄東児童遊園	公園	RC	児童遊園		1974	S49	44	40	▲ 4		1,632	—	159,218	有	有	有	無
		公衆トイレ				1970	S45	48	38	▲ 10	11		19	88,088				
	大渡農村公園	公園	W	その他公園		1998	H10	20	40	20		7,570	71	457,935	有	有	有	無
		公衆トイレ				1998	H10	20	15	▲ 5	9		48	0				
	北方中央線道路公園	公園	W	その他公園		2007	H19	11	40	29		2,734	—	173,250	有	有	有	無
		公衆トイレ				2007	H19	11	15	4	15		36	81,543				
	柏岳生活環境保全林			その他公園		2000	H12	18	40	22		29,668	—	500,000	無	有	無	無
	本部ダム公園	公園	RC	その他公園		1988	S63	30	40	10		6,054	—	1,461,600	有	有	無	無
		公衆トイレ				1988	S63	30	38	8	13		2	44,044				
	楠川公園	公園	RC	その他公園		1990	H2	28	40	12		10,557	—	221,244	有	有	無	有
		公衆トイレ				1990	H2	28	38	10	6		2	44,044				
	武雄工業団地児童公園			その他公園		1990	H2	28	40	12		1,254	—	118,640	有	有	有	無
	矢筈ダム公園			その他公園		1992	H4	26	40	14		3,245	—	1,432,800	有	有	無	有
	さぎの森公園			その他公園		1996	H8	22	40	18		980	—	18,139	無	有	無	無
	狩立日ノ峯ダム公園	公園	RC	その他公園		2000	H12	18	40	22		15,001	—	264,220	有	有	無	無
		公衆トイレ				2000	H12	18	38	20	36		37	137,540				
	宮野町広場	公園	RC	その他公園		1996	H8	22	40	18		749	—	0	有	有	無	無
		公衆トイレ				1996	H8	22	38	16	46		113	220,220				
	競輪場公園	公園	RC	その他公園		2017	H29	1	40	39		3,157	—	1,184	有	有	有	無
		管理棟				2017	H29	1	50	49	69		64	130,170				

公園施設の方向性について（対策内容と実施時期）

公園施設の現況と今後の方向性については、次のとおりとする。

種類	施設名		構造	分類	建設年度	経過 年数 2018	④		面 積 (㎡)		現 況	環境情報	方向性		内 容	対策の実施時期 (前期=～33年度・ 後期=34～38年度)		
							耐用年数						基本方針	実施方針				
							耐用 年数	耐用残 年数	建物	その他								
公園施設	中央公園	公園	都市公園	街区公園	2007	11	40	29		3,517	平成8年にトイレ改修工事を行い、平成20年に遊具の撤去など全面的改修を行っており使用に問題はない。現在新幹線工事により一部占用中。	芝生スペースが広いため、地区住民の憩いの場としての役割を果たしている。屋外イベントの会場としても利用されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1995	23	38	15	89								
	丸山公園			都市公園	近隣公園	1969	49	40	▲ 9		19,040	園路が坂道のため利用しづらい。展望台、遊具が老朽化している。	近隣公園として主に近隣住民による利用が行われている。地蔵などが多数祀られており信仰の場ともなっている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	一の坪公園			都市公園	街区公園	1977	41	40	▲ 1		1,735	遊具が老朽化している。	地区住民の憩いの場として利用されるとともに、地区の運動会や相撲の練習場としても利用されている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	白岩運動公園	公園	東公衆トイレ	W	都市公園	運動公園	1979	39	40	1		190,402	スポーツ施設を除き、特に目立った損傷は見当たらない。	スポーツ施設は各種大会や練習などで利用されており、トリムコースなど健康づくりのために日常的に利用がある。敷地内はオルレコースにもなっており観光利用も行われている。地域防災計画で防災拠点に位置付けられており、災害時の重要な公園である。	長寿命化等	長寿命化	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。公園内のスポーツ施設の方向性は、スポーツ施設編で検討を行う。	次期計画以降
							2002	16	15	▲ 1	17							
							2012	6	15	9	61							
							1979	39	38	▲ 1	66							
							2011	7	15	8	45							
	天神崎公園	公園	都市公園	近隣公園	1981	37	40	3		10,832	遊具が老朽化している。	近隣公園として主に近隣住民による利用が行われている。地区のグラウンドゴルフ、夏祭り、相撲の練習場としても利用されている。	長寿命化等	長寿命化	遊具の改修を含め、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1981	37	38	1	34								
	迎田緑地			都市公園	都市緑地	1980	38	40	2		27,785	特に目立った損傷は見当たらない。	庭園部分があり散歩、休憩所憩いの場として利用されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	菅町河畔公園			都市公園	都市緑地	1993	25	40	15		903	工作物等の使用について特に問題はない。	武雄温泉と図書館や武雄の大橋を繋ぐ導線上に位置しており、まちあるきの休息の場となっている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	五反田公園			都市公園	街区公園	1994	24	40	16		1,600	遊具が老朽化している。	近隣にマンションが建設された	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	野田公園	公園	都市公園	街区公園	1994	24	40	16		1,557	トイレ、遊具が老朽化している。	小幡天満宮を取り囲むように公園整備されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。トイレは限界まで使用し、撤去を含め検討する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1994	24	38	14	6								
	黒尾町公園			都市公園	街区公園	1995	23	40	17		2,501	四阿が老朽化している。	地元区で花植えが行われている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	杉橋公園			都市公園	街区公園	1995	23	40	17		1,978	パーゴラ、遊具が老朽化している。	地区住民の憩いの場として利用されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	梶原公園			都市公園	街区公園	1995	23	40	17		639	遊具が老朽化している。	桜が大木となり花見客も見受けられる	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	山内中央公園	公園	都市公園	地区公園	1989	29	40	11		43,705	遊具が老朽化している。	地区公園として徒歩圏内に居住する者の利用が行われている。地域防災計画で防災拠点に位置付けられている。子ども連れの利用者が多い公園である。	長寿命化等	長寿命化	遊具、構築物の改修を含め適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		展望台			RC	1993	25	38	13	54								
	きたがた四季の丘公園	公園	都市公園	地区公園	1996	22	40	18		92,127	遊具が老朽化している	地区公園として徒歩圏内に居住する者の利用が行われている。子ども連れの利用者が多い公園である。	長寿命化等	長寿命化	遊具、構築物の改修を含め適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		管理棟			RC	1995	23	50	27	117								
		資料館・展望台			RC	1995	23	38	15	326								
		公衆トイレ			RC	1995	23	38	15	31								
	武雄東児童遊園	公園	児童遊園		1974	44	40	▲ 4		1,632	遊具が老朽化している	児童公園として設置されている公園であり、子ども連れの利用者が多い公園である。	長寿命化等	長寿命化	遊具の改修を含め、適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1970	48	38	▲ 10	11								
	大渡農村公園	公園	その他公園		1998	20	40	20		7,570	ベンチに腐食・劣化が見受けられる。	区行事、一般客の休憩に利用。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			W	1998	20	15	▲ 5	9								
	北方中央緑道路公園	公園	その他公園		2007	11	40	29		2,734	比較的新しい施設であり使用について特に問題ない。	北方小学校の近くに位置しており、子供の送迎待機場としての利用も多い。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			W	2007	11	15	4	15								
	柏岳生活環境保全林			その他公園		2000	18	40	22		29,668	頂上の展望所に一部腐食・劣化がみられる。ウォーキングコースについても、過去の災害により通行不可となっている。令和元年8月豪雨により、3か所の土砂災害が発生しており、復旧まで通行止めとしている。（今回で3回目の被災）	県内30箇所ある生活環境保全林の一つとして整備されている。内ノ子ため池周辺の森林は、紅葉も美しく休憩所としても利用されている。地元の川良区としては、初日の出の会以外の行事利用は特にない。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	本部ダム公園	公園	その他公園		1988	30	40	10		6,054	工作物等の使用について特に問題はない。	県と管理協定を締結している。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1988	30	38	8	13								
	楠川公園	公園	その他公園		1990	28	40	12		10,557	特に目立った損傷は見当たらない。	ヘリポートとしても利用されている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1990	28	38	10	6								
	武雄工業団地児童公園			その他公園		1990	28	40	12		1,254	遊具が老朽化している	地元区で管理が行われている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	矢野ダム公園			その他公園		1992	26	40	14		3,245	特に目立った損傷は見当たらない。	ヘリポートとしても利用されている	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	さきの森公園			その他公園		1996	22	40	18		980	駐車場利用が主のため現状施設としては問題ない。	駐車場としての利用が主である	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降	
	狩立ノ葦ダム公園	公園	その他公園		2000	18	40	22		15,001	工作物等の使用について特に問題はない。	ダム周辺のランナーなどの休憩スペースとして利用されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	2000	18	38	20	36								
	宮野町広場	公園	その他公園		1996	22	40	18		749	平成8年築、施設として特に問題はない。公園設置以前からある塀が倒壊の危険性がある。	地区住民及び一般客が利用されている。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		公衆トイレ			RC	1996	22	38	16	46								
	競輪場公園	公園	その他公園		2017	1	40	39		3,157	コンビネーション遊具、スイング遊具4基、ベンチ、時計塔、BMXミニコース、事務所棟など設備が充実しており家族連れでの利用が多い。	遊具やBMXコースなど子供が遊べる設備が充実しており家族連れでの利用が多い。	長寿命化等	維持修繕	適切な維持管理を行い、供用限界まで施設を維持する。	次期計画以降		
		管理棟			RC	2017	1	50	49	69								

第3章 今計画の対策費用及びフォローアップ等について

1 対策費用

各公共施設の方向性を次の算出単価などを参考に対策費用を講じるものとする。なお長寿命化については更新費用の6割から7割程度とし、維持修繕費用については各施設の状態をもとに判断する。事業実施期間は、他の公共施設整備事業の実施を鑑み事業費の平準化を行い実施していくこととする。

■更新（建替え）参考単価 ※公共施設等更新費用試算ソフト

- ・市民文化系、社会教育系、行政系等施設 40万円/㎡
- ・スポーツレクリエーション施設系等施設 36万円/㎡
- ・学校教育系、子育て支援施設等 33万円/㎡

2 武雄市個別施設計画市民会議

今後の公共施設の方向性について、武雄市個別施設計画市民会議（委員14名により構成）を次のとおり開催し、方向性について広く意見をいただき、本計画の参考とした。また、長期的な考え方については今後の計画策定の参考としていく。

① 会議開催

- ・令和2年5月22日 武雄市公共施設等総合管理計画の概要について
- ・令和2年6月22日 社会教育施設、文化施設、学校教育・児童福祉施設の方向性について
- ・令和2年7月9日 観光施設、産業系施設の方向性について
- ・令和2年7月30日 保健・福祉施設、行政施設、公園施設の方向性について
- ・令和2年8月5日 意見の振り返り

② 計画に対する主な意見

施設	ご意見等
武雄公民館	今後も武雄公民館を文化会館の中で整備するのであれば、公民館専用のスペースを作ってほしい。勤労青少年ホーム棟に武雄公民館を集約してはどうか。
文化会館 (集会棟・成人棟・ 勤労青少年ホーム 棟)	文化会館は、社会教育に必要な全ての要素を包含した子どもから高齢者まで学んで遊べるような施設にしてほしい。地域の方々も共に子ども達を育てていけるような複合的な施設にしてほしい。
	今後、文化会館エリアの施設は、目的ごとに施設（建物）を建てるのではなく複合的な一体化した施設にするべきだと思う。
	利用者から、現在の和室は使い勝手が悪いという意見が出ている。利用しやすい和室を作ってほしい。
	現代美術の展示をする美術館の機能と、古文書を展示する博物館の機能を持つ施設にしてほしい。常設の展示機能があれば、観光資源にもなると思う。

学校教育・児童福祉施設	学校のプールが老朽化しているが、新規でプールを作るとなると莫大な費用がかかるため、大きなプールを作って、いくつかの学校で共同利用してはどうか。
保養村	スカイバスの駅舎は現在使われていないが、市有施設としてこの状態でよいのか。
観光交流センター	新幹線の新駅舎ができることによる影響はないのか。
	既存の観光交流センターと新駅舎の新しい案内スペースは、それぞれの特徴をいかした役割分担があると思うので、相乗効果があるようにする必要がある。
勤労者福祉会館	施設の集約については主な利用者である労働者の方々の意見を聞きながら進めてもらいたい。
	勤労者の福利厚生施設としての現在の目的を引き継ぐ場をどこかに残していただきたい。
消防施設	消防格納庫については、年1戸更新をしてもらっているが、耐用年数を超過している施設がこれだけ多いと、全てを更新するには相当の年数がかかるだろう。団員数の減少や部の統廃合など課題は多いが、築30年や40年経過している施設もあるので、できるだけ良い方向に持って行ってもらいたい。
全体として	施設が廃止となる場合は、一方的に廃止という方向性にせず、安全性や老朽化などについて説明し、利用者の納得を得た上で進めてもらいたい。

3 計画のフォローアップについて

本計画の進捗確認のため、計画に基づく機能改修等の実施状況のほか、利用状況、維持管理コストの評価などを定期的に行うものとする。施設の安全性を確保するために耐震調査等を実施するとともに資産の状況を把握し、施設の機能が十分に発揮される状態を確保するために、法定点検の義務の無い施設についても同様の点検を行うものとする。

また、廃止する施設などは、利用者に対し代替案など他施設の有効利用について説明を行うものとする。